

第五十一回
帝國議會
貴族院

所得稅法中改正法律案外二十一件特別委員會會議事速記録第八號

大正十五年三月十日(水曜日)午前十一時三十九分開會

○委員長(子爵前田利定君) 是ヨリ午前ノ會議ヲ開キマス、引續キマシテ相續稅法中改正法律案ニ對シマシテ御質疑ノアル方ハ此際、續ケテ御願ヒ致シマス

○左右田喜一郎君 相續稅案ノコトデゴザイマセヌガ、昨日、御配付ヲ受ケマシタ表ニ付テ政府委員ノヲヨト御説明ヲ願ヒタイト思ヒマスガ……

○委員長(子爵前田利定君) 宜シウゴザイマス

○政府委員(黒田英雄君) 昨日御註文ニ依リマシテ出來マシタダケノ表ヲ差上ダタノデゴザイマスガ、ソレニ付テヲヨト一言申上ダテ置キタイト思ヒマス、第一ノ表ハ免稅點以下ノ金額ヲ、全部ノ納稅者カラ控除イタシマスル場合ノ減稅見込額デゴザイマス、ソレモ御希望ハ、尙ホ地租ニ付キマシテ御希望ガアリマシタノデアリマスガ、是ハ先般モヲヨト申上ダマシタヤウニ、調査ガ大變ニ困難デアリマシテ、唯今マデ推算イタシマシタル數字モ……差上ダテ御參考ニナラウト思ヒマスル數字モマダ得ラレマセヌ、是ハアトカラ差上ダルトニ致シマシテ、取敢ヘズ第三所得稅、營業收益稅、相續稅ニ付キマシテ、ソレ……此免稅點以下ノ金額ヲ全部總テノ第三所得者カラ千二百圓ヲ控除スル、ソレカラ營業收益稅ニ付キマシテモ、總テノ所得カラ千二百圓ヲ控除シタ場合ニ、ドレ位減ルデアラウカト云フコトヲ見タノデアリマス、是ハ第三所得者ノ數ヲ見マシテ、其數二千二百圓ヲ總テ乘

ジマシテ算出ヲ致シタノデアリマス、是ハ大體コレ位ノ見込ニ相成ラウカト考ヘテ居ル次第デアリマス、他ノモノモ矢張り同ジヤウナモノデアリマス、地租ニ付キマシテハ、出來マシタナラバ後程差上ダルトニ致シマス、ソレカラ次ノ表ハ配當金ニ對シマスル課稅ノ調デアリマスガ、之ニ對シマシテハ、特ニ申上ダテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ左右田サンカラノ御希望デアリマシタノデアリマスルガ、第三所得稅トシテ課稅ヲサレテ居リマスル配當金ハ、是ハ十四年ノ第三種ノ所得ノ決定ヲ見マスト云フト、三億七百萬圓ニナッテ居リマスノデアリマス、是ハ稅法ニ依リマシテ四割ヲ控除イタシテ課稅標準ニ致シテ居リマスルカラ、之ヲ換算イタシマスト五億一千百萬圓ニ相成リマスノデアリマス、ソレニ對シマシテ、ドレ位ノ第三所得稅ヲ納メテ居ルカト云フコトヲ見マスコトハ、過日モ申上ダマシタヤウニ、非常ニ困難デアリマシテ、色ミナ階級ニ是ガ入ッテ居リマス爲ニ、稅率ガ總テ違フノデアリマス、ソコデ嘗テ大正十一年ニ於キマシテ試ミニ各種ノ所得者ニ於キマシテ、ドレ位、配當所得ガ入ッテ居ルカト云フコトヲ調べ見タコトガアルノデアリマス、是ハ各階級ニ於キマシテ、ドレ位配當所得ガアルカト云フコトヲ見マシテ、其階級ノ稅率ヲ適用シテ見タノデアリマス、ソレ故ニ其稅率ハ勿論、其所得者ノ上ノ部分ニ相成ルノデアリマス、所得者ノ上ニ、詰リ高イ率ノカ、ル所ニ相成テ居ルノデアリマス、是ハ勿論、其所得ダケガ引カレテ、若シ第三種所得ニ綜

合サレナイコトニナリマス云フト、ソレダケ減ッテ率ガ下ガルノデアリマスルカラ、ソレダケ入ッテ居ル時ノ總額ト、入ラヌ時ノ總額ヲ比較イタシマスルノニハ、ドウシテモソレヲ所得ノ上層ニ載セテ見ナクチャナラヌノデアリマス、ソレ故ニ左様ナ計算ヲ致シマシテ、其當時、調ベマシタモノガ大體、此三千八百萬圓見當ニナッテ居ルノデアリマス、之ヲ五億一千百萬圓ト云フモノト、其當時ノ所得トノ比例ヲ見マシテ、大體、推算イタシマシテ、三千八百萬圓位ノ總額ニ相成テ居ルヤウニ考ヘラレルノデアリマス、今日ノ大正十三年、若クハ十四年ノ第三種所得ニ付キマシテ調査イタシマスルコトハ、是非非常ナ日子ヲ要シマスルノデ、到底、御希望ノヤウニ、此御審議ニ間ニ合ヒマスルヤウニ致スコトハ速モ出來セヌノデアリマス、止ムヲ得ズ推算イタシマシテ、三千八百萬圓ト致シマシタ、ソレデ此五億一千百萬圓ニ對シマシテ、ドレ位ノ率ニナルカト云フコトヲ見マス、百分ノ十二「コムマ」四ト云フコトニ相成ルノデアリマス、併シハ配當ノ中デ、所得納稅者ガ所得イタシテ居リマスル配當ニ付テノ見マシタノデアリマス、會社ガ配當ヲ致シマスルモノハ尙ホ他ニモアルノデアリマス、所謂所得ヲ納稅シテ居リマセヌ者ガ、取得シテ居ル配當モ勿論アルノデアリマス、即チ千二百圓以下ノ配當ヲ受ケテ居ル者モアルノデアリマスカラ、是ハ五億一千百萬圓ノ中ニ入ッテ居リマセヌ、ソレヲ大體推算ヲ致シマシテ、全體ノ配當金ニ對シマシテ換算ヲ致シテ見マス云フト、三千

八百萬圓ヲ得マスルノニ、大體、百分ノ七「コムマ」四強ト云フコトニ相成ルノデアリマス、左様ナ次第デアリマスルカラ、此算出ハ、サウ云フ風ナ推算ヲ用キテ居リマスルト云フコトヲ御了承ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○左右田喜一郎君 唯今ノ御説明ニ對シテ質問シテ宜シイノデアリマスガ

○委員長(子爵前田利定君) 宜シウゴザイマス

○左右田喜一郎君 第二ノ配當金ニ對スル課稅ノ御調ニ對シテ御尋ネ致シマスガ、私ノ手許ニアリマスル調ニ依リマシテ、第三種所得ノ中デ配當金ガ、ドノ位アルカト云フコトニ對シテ、手許ニ大正十年、十一年、十二年ノ統計ガアリマス、唯今、頂戴シマシタ表デ十四年ノモノガアリマス、大體、三億一千百萬圓内外位アルヤウデアリマス、之ヲ基準トシテ考ヘテモ宜シイカト存ジマス、ソレヲ配當金總額ニ換算スレバ、五億一千百萬圓ト云フコトニ相成ルノデアリマス、サウシテ、ソレニ對スルモノトシテ先ヅ大正十一年ト云フ御話デアリマス……無論、ソレ以後ノハ計算ガ取レナイ譯デアリマスガ、三千八百萬圓ト云フ減稅額推算ヲ考ヘマス、稅率ハ百分ノ七「コムマ」ト云フコトニナル、之ヲ假リニ源泉課稅ニ致シマス、此配當金總額ガ五億幾ラヨリモ又幾ラカ殖エル譯デアリマス、無論、是ハ第三種所得デスカラ、現行ノ法ニ依リマシテ八百萬圓以下ハ免稅ニナリマス、從テ此合計ハ五億一千百萬圓ヨリ幾ラカ餘計ニナル、又現在幾ラカ課稅サレルモノデモ源泉課稅

ニナレバ漏レナク取レルコトニナリマスカラ、何レニシテモ此金額ヨリ幾ラ餘計ニナルヤウニ考ヘマス、假リニ三千八百萬圓ヲ標準ニ押ヘマス、百分ノ七「コムマ」四ト云フモノガ、「コムマ」以下ヲ取リマシテ百分ノ七ト云フコトニ假リニナリマス見マシテ、恰度、今回ノ資本利子稅ヲ加ヘタモノ、稅三同位ニナル譯デアリマス、サウスルト理論カラ申セバ、配當金モ第三所得ニ組入レルト云フコトハ、是ハ小川郷太郎君ナドノ平素ノ主張ノ如ク、所謂稅ノ理論ノ上カラ言フ場合ニハ進歩ト云フベキデアリマスガ、又實際、サウスフヤウナ風ニ大正十二年カラデスカ、第三種所得トシテ課稅サレタノデアリマセウケレドモ、若シ此百分ノ七内外ト云フモノデ、現今ノ國庫ノ收入ガ變ラヌ計算ガ出ルノデアレバ、サウスフ理論ノ整理ト云フコトハアリマセウケレドモ、矢張り源泉課稅ニスルコトガ適當ノヤウニ考ヘラレマス、サウスフヤウナ考ヲ起シマスニ付キマシテモ、此三千八百萬圓ト云フ數字ガ大ヘン大事ナ數字ニナル譯デアリマス、御見込トシマシテハ、大體現今デモコンナコトデ推算サレルトシテ見テ宜シイノデアリマスガ、ソレ丈ケナヨト承テ置キタイト思ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) 御答ヘ致シマスル前ニチヨット訂正ヲ致シテ置キマスガ、先程、私が説明イタシマシタガ、チヨット私ノ頭ニ誤解ガアリマシテ、説明ヲ誤テ居ッタヤウニ考ヘルノデアリマスガ、併シ唯今ノ御質問ニ依リマシテ、私が誤解シテ御説明申上ゲマシタニ拘ラズ、御覽ハ、却テ正確ニ御覽下スツテ居ッタヤウニ思ヒマスルカラ、或ハ必要ナイカモ知レマセヌ、併シ速記ニ殘テ居リマスノデチヨット申上ゲマスガ、此百分ノ十二「コムマ」四ト云フノハ

三億七百萬圓ニ對シマシテ見マスト云フト、百分ノ十二「コムマ」四ニナルノデアリマシテ、四割ヲ加ヘマシタモノノ五億一千萬圓ニ對シマシテハ、百分ノ七「コムマ」四ト云フモノニ相成ルノデアリマス ソレ故ニ唯今御質問ノ通り、此外ニ尙ホ所得稅ヲカケラレナイ配當所得ガアリマスルガ、ソレデ百分ノ七「コムマ」四強云フモノハ、唯今御話ノヤウニ、幾分是ハ低クナツテ、三千八百萬圓ト云フモノヲ得ラレルト云フ結果ニ相成ルノデアリマス、チヨット訂正ヲ致シテ置キマシテ、ソレデ御答ヲ申上ゲマスルガ、唯今ノ御質問ハ是ハ屢、申上ゲマシタルヤウニ、我メト見方違フ御意見デアリマスノデアリマスルカラ、其點ハ更ニ繰返シテ申上ゲマセヌノデゴザイマスルガ、源泉ノ課稅ニ之ヲシタ時ニシテ而モ現在ノ稅額ダケヲ得ルト云フコトニ致ス場合ニ於テハ、其收入金ノ如何ニ依テ率ガ違フノデアルカラ、三千八百萬圓ガ今日ニ於テモ果シテ適當ト考ヘルカト云フ御意味ノ御質問ノヤウニ承ツタノデアリマス、是ハ先程モ申上ゲマシタヤウニ、實ハ今日ハ的確ナル調ヲ得ルコトガ短時日ノ間ニ困難ナノデアリマスルガ、併シ大體、十一年度カラ推算イタシマシタノデアリマスルカラ、先ゾ略是デ大差ハ無カラウト云フ風ニ考ヘラレルノデゴザイマス、其當時カラ今日ガ、株金ノ配當ガ所得ノ多イ人ニ移リ移テ行ツタト云フコトヲ見ル根據モナイノデアリマスルシ、又株ヲ持ツ者ガ段々、此小所得者ノ方ニ多クナツテ來タト云フ傾向モ別ニ見ルコトモ出來ナイノデアリマスルカラ、先ゾ大體、是位ノ見當デ大差ハ無カラウト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○左右田喜一郎君 チヨット附加ヘテ御質問申上ゲマスガ、大正十年ノ時ノ配當ハ是

ハ統計ガ違フテ居ルノデアリマスガ、私ノ手許ニアリマスル統計ニ依テ見マスルト、一億七千萬圓シカ無イノデアリマス、大正十一年ニハ三億七百萬圓ヲ居ル、大變ナ差ガアルノデアリマス、其時ノ見解ニ依テ、三千八百萬圓ガ、大分動キガ出テ來ルヤウニ思ヒマスガ、ソレハ現今デハ三億七千萬、大正十一年ノ數字ニ依レバ稍、之ニ匹敵スル譯デアリマス、從テ此三千八百萬圓ト云フモノハ、現今デモサウスフ風ニ考ヘテ宜イカ、ドウカラ、チヨット重要問題デアリマスカラ、其點ヲ御聽キシタイト思フテ居ルノデアリマス

○政府委員(黒田英雄君) 此配當所得ハ八年ニ依テ大變遷テ居ルヤウデアリマスルガ、十年ニ於キマシテハ法律ガ施行サレマシタ直グ後デアリマシテ、完全ニマダ全部ガ配當所得トシテ計算サレナカッタ、即チ施行前ノモノハ之ヲ綜合シナイト云フコトノ結果ト致シマシテ、完全ニ綜合サレテ居リマセヌノデアリマシテ、十年ノ數字ハチヨット茲ニ標準ニハ適當デナイト考ヘテ居ルノデアリマス、十二年、十三年ト見マスルト云フト、大體、此金額ニ略、似テ居ル、十二年ガ大分、三億一千萬圓チヨット餘ニナツテ居リマス、先ゾ大體、十一年ニ調ベマシタノ十四年ノトハ略、同ジ數字デアリマスルカラ、先ゾ大體、三千八百萬圓ナラバ大シタ違ハナカラウト考ヘテ居リマス

○左右田喜一郎君 チヨット序デニ伺ヒマスガ、大正十三年度ハ幾ラニナツテ居リマス
○政府委員(黒田英雄君) 丁度三億デアリマス
○委員長(子爵前田利定君) 左右田君ハ尙ホ續イテヤリマスガ、宜シウゴザイマス
○左右田喜一郎君 宜シウゴザイマス

○委員長(子爵前田利定君) ソレデハ相續稅法ノ一應ノ質疑ハ濟ムダモノト致シマシテ次ニ進行イタシマス、次ハ通行稅法廢止法律案デアリマスガ、是ハ廢止スベカラズト云フ御議論ガアルカモ知レマセヌガ、御質疑トシテハ先般モソレニ付テ出テ居リマシタコトデアリマスカラ、是ハ除キマシテ、酒造稅法中改正法律案、酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案、麥酒稅法中改正法律案、此三案ヲ束ネテ政府委員ノ説明ヲ求メルコトニ致シマス

○政府委員(黒田英雄君) 先ゾ酒造稅法中改正法律案ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲタイト考ヘマス、酒造稅法中ノ改正ヲ致シマシタノハ、主トシテ酒造稅ヲ増徴イタシマスル關係カラ致シマシテ、此改正ヲ致シタノデゴザイマス、是ハ此酒造稅ヲ今回増徴イタシマスルコトニ相成リマシタ理由ニ付キマシテ、過日、大藏大臣ヨリ詳細ニ御説明申上ゲテ居ルノデアリマシテ、繰返シテ申上ゲル必要モ無イノデアリマスガ、要スルニ、今回、稅制整理ニ依リマシテ、各種ノ生活必需品ニ對シマシテ、減稅若クハ、免稅ヲ致シマシタ結果ト致シマシテ、從テソレノ歳入ニ著シキ缺陷ヲ來スコトニ相成タノデアリマス、其補填ト致シマシテ、一方ニ於キマシテ幾分嗜好品ニ屬シマスルモノデ、而モ此負擔ノ餘地アリト認メマス、其結果ト致シマシテ、酒類ニ付キマシテ増稅ヲ行フコトニ相成タノデアリマス、其増率ノ程度ハ大體二割ト云フコトノ程度ニ相成ツテ居ルノデゴザイマス、御承知ノ通り、酒類ニ付キマシテハ各種ノ酒類ガアルノデアリマシテ、之ニ付キマシテ、大體、二割ノ程度ニ致シテ居ルノデアリマスルガ、物ニ依リマシテハ、其稅率ノ關係カ

ハ

ラ致シマシテ端數ヲ生ジマスルノデ、多少
此率ガ違フテ居ルノモアルノデアリマス、
即チ第一種ノ濁酒ニ付キマシテハ、是ハ現
在ニ於キマシテモ他ノ清酒ニ比較シマシ
テ、多少稅率ガ低クナッテ居ルノデアリマ
ス、今回ニ於キマシテモ、是ハ他ノ種類ト
矢張り區別ヲスベキ、使用サレマスル方面
カラ考ヘマシテモ、矢張り現今通り幾分か
清酒ニ比較シマシテ、安クスルト云フコト
ガ宜シカラウト考ヘマシテ、是ハ三十圓ヲ三
十六圓ト云フコトニ、丁度、二割ノ増額ニ
ナッテ居ルノデアリマス、其三種ノ清酒ニ付
キマシテハ現行一石ニ付テ三十三圓デアリ
マスルガ、之ヲ四十圓ニ致シテ七圓引上ダ
タノデアリマス、是ハ二割一分二厘ト云フ
増額ニナッテ居リマスルガ、是ハ丁度、稅率
ノ數字ノ點カラ申シマシテモ、二割ヲ多少
超エマスルケレドモ、此程度ハ却テ適當デ
アラウト考ヘマシテ、丁度、二割一分二厘
ノ増率ニ相成ッテ居ルノデアリマス、ソレ
カラシテ、三種、四種ニ付キマシテハ、酒
精分ニ付テ課稅ヲ致シテ居ルノデアリマシ
テ、是モ大體、二割ヲ標準ニ致シマシテ、
酒精分三十度ヲ越エ、四十度以下ノ燒酎ト
云フモノニ付キマシテ、三十度ヲ超ユル毎
ニ一圓二十五錢トアリマスルガ、之ヲ一圓
五十錢ニ致シマシテ、是モ丁度、二割ニ相
成ッテ居ルノデアリマス、四種ニ付キマシテ
モ、是ハ酒精分二十三度ヲ超エマスル清
酒、濁酒、白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味
淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎デアリマ
スルガ、之ニ付キマシテモ一石ニ對シテ酒
精分一度毎ニ一圓五十錢ト相成ッテ居ルノ
デアリマスルガ、是モ丁度、二割ノ一圓八
十錢ニ引上ダタコトニ相成ッテ居ルノデア
リマス、ソレカラ第五條ノ改正ハ、是ハ酒
造業ニ付キマシテ、一酒造年度間ニ造リマ

スル制限石數ヲ定メテ居ルノデアリマシ
テ、即チ清酒ニ付キマシテハ三百石、或ハ濁
酒ハ百石ト云フ風ニ色々制限ヲ附ケテ居ル
ノデアリマス、此制限石數ニ依リマシテ免
許ヲ受ケテ居リマスモノガ、其制限石數以
上ノ製造ヲシナイト云フ時ニ於キマシテ
ハ、制限石數ニ相當スル造石稅ヲ課スルト
ト云フコトノ規定ニ相成ッテ居ルノデアリ
マス、ソレニ付キマシテ、即チ造ッテ居ラ
ナイノデアリマスルケレドモ、造ッテ居
トシテ……看做シマシテ課稅ヲ致スノデア
リマス、其率ガ矢張り現行ノ稅率ト……一
種二種ノ稅率ト同ジヤウニナッテ居ルノデ
アリマスカラ、是モ矢張り稅率ヲカケマス
ルコトト致シマシテ、三十圓ノモノヲ三十
六圓、清酒ニ付キマシテハ、三十三圓ノモ
ノヲ四十圓ト云フコトニ改メマシタノデア
リマス、ソレカラ三十五條ノ三ヲ追加イタ
シマシタノハ、是ハ酒造組合ニ對シマシテ交
付金ヲ交付スル規定デアアルノデアリマス、是
ハ酒造稅ヲ徵收スル上ニ於キマシテハ、酒造
組合……當業者ニ相當ナ設備ヲ爲サシメ
ルト云フコトハ、徵稅上ニ於キマシテ官民相
互ノ間ニ非常ニ便宜デアアルノデアリマス、
酒造稅ニ付キマシテハ申上ダル迄モナク、
過去ニ於キマシテハ、隨分、酒造業者ト稅
務官吏ノ間ガ甚ダ圓滿ニ行カナカタ時代
モアッタノデアリマス、併ナガラ之ニ付キ
マシテハ、一方ニ於キマシテハ過日モ大藏
大臣ガ申上ダマシタヤウニ、政府ハ釀造試
驗所ト云フ風ナモノヲ設ケマシテ、酒造業
ノ改良發達ノ爲ニ諸般ノ研究ヲシテ、之ヲ
當事者ニ發表スルトカ、或ハ當業者ノ子弟
ヲ集メマシテ、之ニ講習ヲスルト云フ風ナ
コトニ依リマシテ、一方ニ於テ徵稅イタシマ
スルト同時ニ、一方ニ於テハ相當、指導獎
勵ニ力ヲ盡シテ居ルノデアリマス、實際ニ

於テ酒業者モ、政府ノ指導獎勵ニ依リマシ
テ著シク品質モ改善サレ、又生産費モ低減
シテ行ク、腐敗モ防イデ行クコトガ出來ル
ト云フヤウナコトヲ眼ノアタリ見マシテ、
非常ニ今日ニ於キマシテハ、酒造業者ト稅
務官吏トノ間モ圓滿ニ參ッテ居ルノデアリ
マス、併ナガラ、此ノ酒造業者モ、酒造稅
ニ付キマシテハ査定ヲ受ケマセヌケレバ、
「モロミ」ヲ搾ッテ清酒ヲ拵ヘテ出スコトガ
出來ナイタメニ、酒造時節ニ於キマシテハ
非常ニ稅務官廳ト致シマシテモ繁忙デアリ
マス、酒造業者ノ希望ニ依ッテ、直チに出
張シテ速カニ是ガ必要ナル手續ヲシテヤラ
ナケレバナラヌト云フコトデアリマシテ、
之ニ付キマシテハ、仕事ヲナルベク簡便
ニ、迅速ニ進メマスニ付キマシテハ、當業
者ニ於キマシテモ、相當ナ設備ヲシテ事務
ノ執行上、支障ノ無イヤウニシテ行クト云
フコトハ、敏活ニ事ヲ運ビマス上ニ於テハ
必要デアアルノデアリマス、然ルニ是等ヲ致
シマスノニハ、當業者ニ於キマシテモ相當
ナ經費ヲ要スルコトデアアルノデアリマス、
一方ニハ、酒造組合ハ酒造組合法ト云フモ
ノニ依リマシテ、酒造組合ト云フモノガ殆
ド全國ニ遍ク設ケラレテ居ルノデアリマス
ガ、是等ノ組合ニ於キマシテ色々施設ヲ
致スノデアリマス、是等ガ徵稅上ニ必要ナ
設備ヲシ、又徵稅事務ノ補助ヲスルト云
フヤウナコトヲスルヤウニナリマスレバ、
前申シマスヤウニ、執行上ニ於テモ極メテ
便宜デアリ、速ニ其ノ執行ガ出來ルト云フコ
トヲ、官民ノ間、非常ニ御互ニ便宜ヲ得ラ
レルコトト考ヘラレルノデアリマスカラ、
今回増徴ヲ致シマスレバ、一層、此取締等
ニ於テモ手數ヲ要スルノデアリマス、税金
ガ高クナリマスレバ、自然反則ト云フモノ
モ起リ易クナルノデアリマス、是等ノ取締

ヲ一方ニ要スルト云フ次第デアリマスル
カラ、此際ニ於キマシテ、酒造組合ニ對シテ
相當コノ徵稅上必要ナル設備ヲ爲サシメ、
又ハ徵稅ノ事務ノ補助ヲ爲サシメマシテ、
サウシテ之ニ對シマシテハ、酒造組合ニ於
テモ相當金……經費ノ要スルコトデア
リマスカラ、ソレニ對シテ適當ナ
交付金ヲ交付シタイト云フ考デ規定ヲ設ケ
タノデアリマス、之ニ對シマシテハ、既ニ
織物消費稅ニ付キマシテハ織物組合ニ設
備ヲ設ケサセマシテ、ソコヘ集合シテ査定
ヲセセルト云フヤウナ風ニ、イロ……ナ設
備ヲサセマシテ、ソレニ對シテイロ……交
付金ヲ交付シテ居ルノデアリマス、ソレガ
爲ニ非常ニ簡便ニ從來ヨリモ行クヤウニ
ナッテ居ルノデアリマス、又一方ニ、是等ノ
交付金ヲ組合ニ交付イタシマスレバ、酒造
組合ノ健全ナル發達ニモ利益スルコトニモ
相成ルト思ヒ、從來、此酒造組合ガ納稅ヲ
保證スルト云フヤウナコトガ出來得ルニ拘
ラズ、組合ノ資力ガアリマセヌ爲ニ、ソレ
等ノ保證モ實際ニ於テハ行ハレナイト云フ
風一關係……ア居リマヘルガ、段々是等
ノ組合ガ發達シテ參リマシテ、其資金モ出
來ルト云フコトニナリマスト云フト、組合
ガ……組合員ノ納稅ヲ組合ガ保證スルト云
フコトニナリマス、是ハ政府ノ收入ヲ確
保スル上ニ於キマシテモ非常ニ便宜ヲ得
ルノデアリマス、酒造照合ノ發達ト云フコ
トハ、矢張り官民共ニ利益ヲ得ルコトニ相
成ルノデアリマス、デ、サウ云フ趣旨カラ致
シマシテ、交付金ヲ交付スルコトニ致シタ
ノデアリマス、是ハ十五年度ノ豫算トシテ
御協賛ヲ仰イデ居リマスル金額ハ、一石ニ
付キマシテ十錢ト云フコトニ致シテ居ルノ
デアリマス、一石税金ハ四十圓シカカケナ
イノデアリマスガ、ソレニ對シテ十錢ノ交

付金ヲ交付スルト云フコト一相成テ居ルノデアリマス、ソレカラ此附則デアリマスルガ、是ハ四月一日ヨリ施行スルコトニ致シテ居ルデアリマス、唯、沖繩縣ニ付キマシテハ、沖繩縣ハ、今日、内地ト同ジヤウナ酒稅法ヲ施行イタシマス、同ジ稅率ヲ適用イタシテ居ルデアリマス、今日ノ沖繩縣ノ狀況、如何ニモ經濟界ガ非常ニ困難ヲ致シテ居ルデアリマス、島民ノ生活ノ狀態モ、甚ダ困窮ヲ致シテ居ルヤウナ狀況デアルデアリマス、此際、内地ト同ジヤウニ是等ノ負擔ヲ致サセマスルト云フコトモ如何カト考ヘタノデアリマス、ソレ故ニ沖繩縣ニ付キマシテハ、尙ホ當分ノ間ハ現行ノ稅率ニ留メルコトニ致シマシタ、増稅ノ適用ヲ致サナイ、即チ三十三圓、尤モ是ハ燒酎デアリマス、現行ノ稅率ヲ適用スル、唯、其代リ沖繩縣カラ内地ニ燒酎等ヲ移出スルト云フ風ナ場合ガアリマス、云フト、是ハ消費若ガ内地ニアルデアリマス、是ハ同ジ稅率ヲ適用スルコトガ必要デアリマシテ、從テ現行ノ稅率ヲ、今回増率シタ稅率ノ差額ダケヲ、出港稅トシテ徵收スルコトニシタノデアリマス、出港稅ニ付キマシテハ現在樺太ノ酒類出港稅ガアルデアリマス、此酒類出港稅法ニ依リマシテ、大體、之ヲ適用イタシマシテ出港稅ヲ徵收スルト云フコトニ致シテ居ルデアリマス、次ニ酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案デアリマス、是ハ丁度、酒造稅ニ於キマシテ増率ヲ致シマシタノ同ジヤウニ、大體二割ノ増率ヲ致スコトニ相成テ居ルデアリマス、是ハ特ニ御説明申上ダマス迄モ無ク一圓五十錢ヲ二割増率イタシタノト、三十五圓ヲ四十二圓ニ二割増率イタシマシタマデデアリマス、唯、此處ニ四條ニ「清涼飲料」ヲ加ヘマシタノハ

清涼飲料ニ於キマシテモ、清涼飲料稅法ニ於テ更ニ御説明申上ダマス、清涼飲料デモ全然酒精ヲ含有イタシテ居ラヌト云フモノノミト云フコトハナイノデアリマシテ、全容量ノ百分ノ一以上ノ酒精ヲ含有イタシテ居リマス、是ハ百分ノ一以上ヲ含ムデ居リマス、是ハ酒精含有飲料ニ相成ルデアリマス、清涼飲料ト申シマスルノハ「アルコール」分ハ多少這入ッテ居リマシテモ、全容量ノ百分ノ一以下ノ酒精ヲ含ムデ居リマス、是ハ酒精含有飲料トハ申シマセヌデ、特ニ清涼飲料ト云フ言葉ヲ用キルコトニ今回イタシテ居ルデアリマス、此四條ニ於キマシテ、清涼飲料ハ或ル意味カラ申シマス、云フト、酒精ヲ含有イタシタ飲料デアリマシテ、酒類ニ含有イタシタ飲料デアリマシテ、是ハ酒精含有飲料稅法ヲ適用シナイ、即チ清涼飲料稅法ニ依テ法律スルト云フ意味デ、四條ノ改正ヲ致シタノデアリマス、即チ此四條ニ「清涼飲料」ヲ入レマシタノハ、清涼飲料ニハ本法ヲ適用セズト云フコトニナルデアリマス、清涼飲料ト云ハレル場合ニハ本法ヲ適用シナイ、併ナガラ酒類ノ百分ノ一以上含ムデ居リマシタナラバ、是ハ最早、清涼飲料トハ申シマセヌデアリマス、ソレハ酒精含有飲料ト云フ言葉ヲ以テ、本法ヲ適用スルト云フコトニ相成ルデアリマス、五條ノ二ノ改正ハ、先程、酒造稅ニ付テ申上ダマシタヤウニ制限石數ヲ決メテ居ルデアリマス、其制限石數以下ノ場合ニ於キマシテハ、其制限石數ヲ造タモノト見テ、其場合ニカケマス稅率ヲ改メマシタ次第デアリマス、ソレカラ麥酒稅法中改正法律案ニ付キマシテハ、麥酒稅ノ増率ヲ致シマシタルコトモ、是モ先程申シマシタヤウニ、酒類ニ付テ申上ダマシタト同様デアリマス、此麥酒ニ付キマシ

テハ、其増率ノ率ガ十八圓ヲ二十五圓ニ致シタノデアリマシテ、稅率ガ四割ニ相成ッテ居ルデアリマス、併ナガラ是ハ他ノ酒類ニ較ベマシテハ、麥酒ハ比較的負擔力ガアル者ニ消費セラレテ居ル、尙ホ擔稅力ガアルヤウニ考ヘタノデアリマス、ソレ故ニ麥酒ニ付キマシテハ、他ノ酒類ニ比較イタシマシテ、現今幾分力低イ寧ろ清酒ヲ四十圓ト致シマスナラバ二十五圓ノ程度ガ適當デアル、現在ニ於キマシテハ間差ハ三十三圓ト十八圓、十五圓ノ間差デアリマス、改正法ニ付キマシテハ四十圓ト二十五圓トシマシテ、十五圓ノ間差デアリマシテ、其點カラ見テ、何等不當デナイト云フ風ノ考カラ十八圓ヲ二十五圓ト改メマシタ次第デアリマス

○委員長(子爵前田利定君) 今、御説明ニ相成リマシタ三法案ニ付キマシテ、御質疑ガゴザイマスナラバ、此際願ヒタイ

○馬場鑒一君 酒造稅法中ノ今回ノ第三十五條ノ三ノ點デアリマス、唯今御説明ヲ得タノデアリマス、マダ十分ニトウ云フコトヲ酒造組合ガ致スノカ、餘リ抽象的デ分ラヌデアリマス、徵稅上必要ナル設備、徵收事務ノ補助、是ハドウ云フコトヲ致シマス、具體的ニ一ツ伺ヒタイ

○政府委員(黒田英雄君) 是ニ付キマシテハマダ的確ニ細目マデハ定メテ居リマセヌデアリマス、酒造組合ハ御承知ノ通り、地方ニ依リマシテ非常ニ資力ガ違ヒマス、力ガ違フデアリマス、例ヘバ灘デアルトカ、伏見デアアルトカ云フモノ、極ク地方ノ田舎ノ方ノ酒造組合、是等ニ對シマシテ、同一ノ設備ト云フコトヲ命ジマスルコトモ相當困難デアラウト考ヘマス、ソレ故ニ全國一率ニ之ヲ行フト云フコトモ困難デアラウト思ヒマス、又一面カラ見

マフト云フト 既ニ今日相當資力ノアル所ニ於キマシテハ、相當設備ヲシテ補助モシツ、アルヤウナ所モアルノデアリマスカラ、ソレ等ニ對シマシテハ、今後、更ニ一層ノ設備ヲ命ズル、又地方ニ於キマシテハ、殆ド設備ノ出來テ居ラヌト云フ風ノ所ニ向テハ、現在資力ノアル所デ致シテ居ル設備マデ及バヌデモ、或ル設備ヲ命ズルト云フ風ノコトニ相成ラウト思ヒマシテ、全國一率ニハ困難デアラウト考ヘテ居リマス、先ヅ大體ヲ申上ダマス、徵收事務ノ補助ト致シマシテハ或ハ桶ノ實測ヲ致シマス、稅務官吏ガ一々總テノ桶ヲ實測イタシテ居ルト云フト、非常ニ手數ト時間ヲ要スルデアリマス、ソレ等ヲ組合ササウ云フコトノ出來ルヤウナモノヲ使ヒマシテ、其補助ヲサセルトカ、或ハ帳簿ヲ備ヘマシテ、其帳簿ニ此「モロミ」ノ熟成ノ結果ヲ詳細ニ書カシテ、サウミテ其帳簿ヲ完全シタル帳簿ニスレバ、稅務官吏モ時々見テ其「モロミ」ノ現狀ト照合シマシテ、ソレガ果シテ適當デアルカ、ドウカト云フコトモ判斷モ直グ出來ルデアリマシテ、サウ云フ風ナ色ニナ帳簿ノ設備、是ガ記入ニ付キマシテ、酒造組合ニ色ニ世話ヲシテ其記入ヲ各酒造家ニ於テ致スヤウニ、或ハ稅務官吏ガ或ル組合ヲ補助シテ行カヌケバナラヌヤウナコトモアラウト思ヒマス、其補助ヲサセル、或ハ色ニナ徵稅事務ノ補助ノ方ガ多クナラヌト云フコトモ多少デアリマスカ、設備ト致シマシテモ、現在ニ於キマシテ隨分不完全ノ所ニ於キマシテハ、參リマシテ檢査ヲ致スニ付テモ、ソコニ或ハ、稅務官吏ガソコデ色ニナ調ヲ致シマスル椅子「テーブル」等ノ備ヘノ無イト云フヤウナ所モ隨分アルデアリマス、ソレ等ハ非常ニ此執務ノ上ニ於テ手數ヲ缺キ、又時間ヲ要ス

ルト云フヤウナコトニモナルノデアリマス、サウ云フ風ニ又検査ヲ致シマスル上ニハ、色ニナ道具、物指トカ、或ハ「モロミ」ノ温度ヲ見マスル寒暖計デアリマスルトカ、色ニナ設備ヲ致シマスルコト云フコトモ、矢張り微稅事務ニ非常ニ便利ヲ來スノデアリマス、マア大體チヨット申上ゲマスレバ左様ナモノデアリマスガ、是等ハ進シデハ實ハ斯ウ云フ考マデモ有テ居ルノデアリマス、先程モチヨット申上ゲタヤウニ、多少地方ニ於キマシテハ設備ヲスルト同時ニ一方ニ於テハ組合ノ基礎ヲ鞏固ニシマシテ、組合ノ納稅ノ保證マデモ酒造組合ニサシタイト云フ希望ヲ有テ居ルノデアリマス、併シ是ハ俄ニ各酒造組合ニサウ云フコトヲ致セト申シマシテモ、是ハ此組合ノ資力ガ無い、即チ組合ノ或ル者ガ滯納イタシタ時ニ、組合ガ早速税金ヲ納メテ置イテ、アトカラ組合員カラ取上ゲナクチャナラヌノデアリマスカラ、先ヅ立替ヘテ納メル資力ガ組合ニナケレバナラヌ、是ガマダ十分ニ資力ガ出來マセヌト云フト、サウ云フコトマデ行カヌノデアリマス、中ニハ組合デ以テサウ云フ希望ヲ有テ居ル者モアルノデアリマスカラ、是ハ將來ニ於キマシテハ段々基礎ヲ拵ヘマシテ、サウ云フコトマデモ進マセタイト云フ考ヲ有テ居リマス

○藤山雷太君 少シ稅ノ取立法トハ意味ガ違フ質問デアルカモ知レマセヌケレドモ、此釀造試驗所ト云フモノヲ大藏省ニ御置キニナツテ酒ヲ御造リニナル場合、嘗テ私ハ主稅局長ノ御催シデ、外國米ト日本米デ造ラタ色ニナ酒ヲ並ベテ試飲會ヲ爲サレ、其結果ガ外國ノ米ヲ使テモ日本酒ガ立派ニ出來ルト云フ場合、試飲會ノ模様デハ、日本米デ造ラタノ識別出來ナイ位ニ外國「カリフォルニア」カドコカノ米デ酒ヲ造

タ、斯ウ云フコトニナツテ居ラタヤウデシタガ、ア、云フ事ガ行ハレマス、日本ノ食料問題ヲ解決スル上ニ於テ、隨分、安イ外國米ヲ以テ酒ガ出來ルト云フコトニナリマスト、日本ノ食料問題ヲ解決スル上ニ大變便利デナイカト思ヒマスカラ、今ハドウ云フコトニナツテ居リマスガ、酒造組合ナドニ、外國米デ酒ヲ造ラスト云フヤウナ獎勵デモ爲サルヤウナ途ガアルノデスカ、實際ハ矢張り内地米デ多分造ラテ居ルグラウト思ヒマスガ、サウ云フヤウナコトニ付テ序デニ御尋ネシタイト思ヒマスガ、若シ御説明ガ出來レバ仕合セト存ジマス

○政府委員(黒田英雄君) 御尋ノ通り試驗所ニ於キマシテ嘗テ外國米ヲ原料米ト致シマシテ清酒ヲ釀造イタシタコトモアルノデアリマス、ソレニ依リマシテ、唯今御話ノヤウニ相當ナ清酒ヲ得ルコトガ出來ルト云フコトハ實驗イタシタノデアリマス、併ナガラマダ今日ノ狀況ニ於キマシテハ、外國米ヲ原料米ト致シマシタモノト、内地米ノ良イ即チ釀造米、例ヘバ播州米デアルトカ、或ハ肥前米デアルト云フ風ナ釀造米トシテ非常ニ適當シタ米ヲ使ヒマス間ハ、マダ幾分風味等ニ於キマシテ差異ガアルヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、併ナガラ段々此釀造ノ技術モ進ムデ參ルト云フコトニナルト云フト、外國ノ米ヲ使ヒマシテモ相當酒ハ出來ルト云フコトハ、是ハ確デアラウト思ヒマス、併シ矢張り今日ノ狀況カラ見マスト云フト、内地ノ釀造家ハ矢張り良イ風味ノ酒ヲ造リタイ、ドウモ酒ハ嗜好品デアリマス結果トシテ、矢張り此本當ノ酒ヲ飲ム人ハ其風味ヲ味ハツテ飲ムト云フ風ナ關係カラ致シマシテ、矢張り風味ノ良イモノ風味ノ良イモノト云フ風ニ努メテ參ルノデアリマス、ドウシテモ肥前米デアルトカ、或

ハ播州米デアルト云フヤウナ非常ニ高イ、普通ノ米ヨリモ十圓トカ或ハ二十圓モ高クナルト云フヤウナモノデ造ラタノハ、甚ダ是ハ宜シクナイト私ドモ考ヘテ居リマス、先ヅ今日ニ於キマシテ、第一ニサウ云フ風ニ局限サレタ米バカリデナクシテ、方々ノ各地ニ於キマス少クモ内地米ヲ使テ行クト云フコトガ、先ヅ爲スベキコトデアラウト云フコトデ、各地ニ於キマシテ、此頃酒造米ヲモ作ルト云フコトニ致シテ居ルヤウデアリマス、段々農會等ニ於キマシテ色ミ獎勵ヲシマシテ、或ハ埼玉縣デ出來タ米ヲ使テ造ルトカ、或ハドコノ縣トカ云フ風ニ、其地方其地方デ拵ヘテ參ルヤウニナツタノデアリマスガ、御話ノヤウニ、米ヲ使ヒマスルコトガ必要デアル間ニ於キマシテモ、場合ニ依リマシテ、外國米ヲ以テ之ヲ造ルト云フコトマデモ進ムデ行カナケレバナラヌコトデアラウト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ此酒ニ付キマシテハ、更ニ進ミマシテ食糧問題ノ關係等カラ致シマシテ、米ヲ使フト云フコトヲセズシテ、米ヲ用キズシテ、清酒ト同ジ清酒ノモノヲ造ルト云フコトニ向テ進ムデ參ラナケレバナラヌト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、試驗所ニ於キマシテモ、從來、相當研究ヲモ致シテ居ルノデアリマス、或ル程度マデノ實驗ヲ得テ居リマスルガ、マダ完全ニ清酒トシテ所謂風味ガ、米デ造リマシタ清酒ト變リノ無イモノマデモ工業的ニヤラレルト云フマデニ結果ヲ得ラヌ、併ナガラ、ソレニ向テ研究ヲ進メテ居ルノデアリマス、理化學研究所ニ於キマシテ、所謂理研酒ト稱シテ、調合ノ酒ヲ造ラテ居ラレヤウデアリマスガ、併シ是モマダ風味ニ於キマシテハ、今日直チニ清酒ニ匹敵スルト云フコトニハ困難デハナカラウカト我々ハ見テ居

ルノデアリマス、併シ段々進ムデ參リマシタナラバ、或ハ米ヲ使ハズシテ清酒ヲ造ルト云フコトマデ、化學工業ノ進歩ノ方カラ見マスレバ、ソコマデ行カナケレバナラヌモノデアラウト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス

○山田惠一君 唯今ノ政府委員ノ御話ニ付キマシテ御尋ネ申シタイノハ、此酒造稅ガ引上ゲニナリマス、自然、化學工業ノ進歩上、人造酒ガ出來ルモノト私ハ考ヘルノデアリマス、聞ク所ニ依リマス、完全ナル酒ヲ造リ得タト云フコトヲ承テ居リマスガ、若シサウ云フコトニナリマシタ時分ニハ、稅法ハドウ云フモノヲ適用スルノデアリマスカ

○政府委員(黒田英雄君) 先程チヨット申上ゲマシタノガ、或ハ徹底イタシテ居リマセヌカト思フ點ヲ補足イタシマシテ御答ヘ申上ゲマスガ、今日、米ヲ使ハナイデ酒ガ出來テ居ルト云フコトヲ申上ゲマシタ、マダ私等ノ考デハ、是デ以テ今日清酒ノ釀造業ガ脅威ヲ感ジマスルマデ果シテ進ムデ居ルモノデアアルヤ否ヤト云フコトハ、疑問デアラウト思ヒマス、未ダ俄ニ、多年長イ間慣レテ居リマスル所ノ國民ノ飲料デアリマスル清酒ヲ、直チニ米ヲ使ハズシテ總テ置キ換ヘルコトガ出來ルカト云フコトハ、是ハ餘程困難ナ問題デアリマシテ、サウ急ニ如何ニ進歩イタシマシテモ、直チニ出來ルモノデハナカラウ、併シ將來ニ付テハ、餘程此點ニ付テハ當業者モ講究ヲ致サナケレバナラヌデアラウト云フ趣意ヲ申上ゲタノデアリマス、併シ今日ニ於キマシテ免ニ角、サウ云フ米ヲ使ハナイデ酒ヲ造ルト云フコトガ出來マシタ以上ハ、今日ニ於キマシテハ、是ハ酒精含有飲料トシテ課稅イタスヨリ外ハナイノデアリマス、併シ將來、總テ

風十場合ニ於キマシテハ、矢張り是ト相關
聯イタシテ居ル所ノ清涼飲料ニ付テ、適當
ナ稅ヲカケルト云フコトガ必要デアルト云
フコトノ意味デアリマス、上ゲ過ギタト云
フ意味デハナイノデアリマスカラ、其點ハ
御了承ヲ願ヒタイノデアリマス、然レバ擔
稅ノ能力ガアルト云フ意味カラ麥酒ニ付テ
ハ四割ヲ上ゲタト云フコトニナルト將來ニ
於テモ麥酒ノ造石高ガ今日ノヤウナ勢ヲ以
テ段々殖エテ行クヤウニナルト、尙ホ麥酒
ニハ擔稅力アリトシテ、政府ハ他ノ酒類ニ

抑ラズ酒麥ノ稅ヲ上ゲルカト云フ風ナ御疑

問デアリマシタカ。今日ニ於キマシテハ左様ナ考ヲ有^テテ居ラヌノデアリマシテ、清酒ニ付キマシテ四十圓ト致シマスレバ、其關係カラ見マシテ二十五圓位ガ麥酒トシテハ適當デアラウ、即チ需要ノ方面カラ見マシテモ、大體、清酒ノ四十圓ニ對シマシテハ麥酒ガ二十五圓位、權衡ガ少シク如何カト考ヘタノデアリマスガ、清酒ガ四十圓ニナリマスレバ、麥酒ハ二十五圓位デ適當ダラウト考ヘテ居リマス、單獨ニ麥酒ニ付キマシテ將來麥酒ダケノ税金ヲ上ゲルト云フコトハ、今日ニ於テハ少シモ考ヘテ居ラヌノデアリマス、他日、是等ノ間接稅ガ何カ必

要ガアッテ一般的ニ上ガルト云フ場合ニ於

テハ、是ハ格別デアリマス、麥酒ダケニ付
キマシテ、麥酒ノ消費ガ殖エタカラ擔稅力
アリトシテ麥酒ダケヲ上ゲルト云フコト
ハ、今日ニ於テハ少シモ考ヘテ居リマセヌ
○委員長(子爵前田利定君) 大體御質疑ハ
終^レタヤウデアリマス、次ニ進行イタシマ
ス、醬油稅廢止法律案、是ハ廢稅デアリマ
スカラ置キマシテ、次モ自家用醬油稅廢止
法律案、是モ同様デアリマスカラ差置キマ
シテ、織物消費稅法中改正法律案ニ移リマ

ス、此法律案ニ付テノ政府ノ御説明ヲ請ヒ

マス

○政府委員(黒田英雄君) 織物消費税法中

改正法律案ニ付キマシテ御説明ヲ申上ダタ
イト思ヒマス、織物消費税ニ付キマシテハ、
或ハ織物消費税ヲ全廢スベシト云フ風ナ議
論モ從來屢、行ハレタコトモアリマスケレ
ドモ、併ナガラ織物消費税ハ今日ニ於キマ
シテハ既ニ御承知ノ通り、六千万圓以上ノ
歳入ヲ得テ居ルヤウナモノデモアリマスル
シ、又織物ノ中ニ於キマシテハ絹織物、ド
チラカト申シマスレバ、奢侈的消費ニ屬ス
ルヤウナモノモアルノデアリマシテ、之ヲ
全部免稅ニスルト云フコトハ歳入ノ關係カ
ラ申シマシテモ、又其品物ニ付キマシテ見
マシテモ、之ヲ全部免稅スル、即チ織物消
費税ヲ廢スルト云フコトハ適當デナカラウ
ト云フ風ニ考ヘタノデアリマス、併ナガラ
其中ニ於キマシテ織物ハ、免二角、國民ノ
衣食住ト致シマシテ生活ノ必需品デア
デアリマス、其必需品デアリマス織物ハ如
何ナル織物デアアルカト申シマスルト、國民
一般ニ用キラレテ、多數ノ國民ノ生活必需
品ニ相成テ居リマスモノハ、即チ綿織物デ
アルノデアリマス、ソレ故ニ此國民ノ大多
數ニ於キマシテ、必需品ニナツテ居リマス
モノヲ免稅イタシマスレバ、即チ生活ノ必
需品ヲ大體免除スル、其負擔ヲ輕減スルト云
フコトニ相成ルノデアリマス、デ今回綿織
物ニ付キマシテダケ織物消費税ヲ免除スル
ト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、勿
論、此綿織物ノ中ニ於キマシテモ相當高價
ノモノガアルノデアリマス、或ハ薩摩綿、
久留米綿、瓦斯綿、一反或ハ四五十圓モス
ルト云フ風ナ綿織物、相當高價ナ奢侈的消
費デアアルト云フ部類ニ屬スルモノモ勿論ア
ルノデアリマス、又一面カラ見マスルト、
他ノ織物ノ中ニ於テ絹織物ニ致シマシテ

モ、絹物ニ致シマシテモ下級品ガアルノデ
アリマシテ、ソレ等ハ中産階級以下ニ用キ
ラレルト云フ風ナモノモ相當アルノデアリ
マスケレドモ、併シ大體カラ見マスルト云
フト、他ノ織物ニ付キマシテハサウ云フモ
ノハ全體ニ少イ部分デアリマス、綿織物ニ
付テハ、綿織物ノ大部分ト云フモノハ其
價格モ安ク、又大多數ノ國民ニ於テ生活ノ
必需品トシテ著物ニナルト云フ風ナモノデ
アラウト考ヘルノデアリマスカラ、ソレ故、
綿織物ダケニ付テ免稅ヲ致スト云フコトニ
致シタノデアリマス、サウ云フ目的デアレ
バ、然ラバ織物ノ價格ニ依テ免稅點ヲ設
ケタラドウデアラウト云フコトモ致究イタ
シテ見タノデアリマス、併ナガラ此綿織物
ノ價格區別スルト云フコトハ、非常ニ實
行上ニ於テ困難ナノデアリマシテ、或ル一
定ノ價格ト云フモノヲ設ケマスルコトガ既
ニ困難デアリマスガ、假リニ或ル價格ヲ設
ケマシテ假リニ一反五圓以下デアアル、或ハ十
圓以下デアアルモノヲ免除スルト云フコトニ
致シマシテモ、是ハ何ノ標準ニ依テ決定メ
ルト云フコトニナリマスルト、御承知ノ通
リ反物ニハ或ハ着尺縞、或ハ端尺縞モアリ
マスルシ或ハ袴地、帶地、蒲團地、其モノ
ニ依リマシテ其中モ長サモ違フノデアリマ
ス、同ジ一反ト云フコトニ付テモ標準ト出
來ナイ、然ラバ或ハ寸法ニ依テ、一尺四方
ノモノデ幾ラ以下ノモノト云フコトニ致シ
マシテモ、ソレニハ厚地モ、薄地モ、加工
意匠、其他ニ依テ非常ニ違フノデアリマシ
テ、單位ヲ定メルト云フコトハ到底實行上
困難デアリマス、又施行上ニ於テモ、是等
ノ時價ト云フモノガ大變變動イタスノデア
リマスカラ、今日、十圓以上ノモノモ明日ハ
十圓以下ニナツタリ、又十圓以上ニナリ、
課稅ヲシタリ、シナカツタリ、其都度消費税

ノ可否ヲ決スルト云フコトハ實行上非常ニ
困難デアリマスカラ、價格ニ依テ決定メ
ルト云フコトハ是ハ困難デアアルト云フ風ニ考
ヘマシタノデアリマス、ソレデ先程申上ダ
マシタヤウニ、大體、綿織物ニモ高價ノモ
ノガアリマシテモ、其大多數ト云フモノハ、
大部分ト云フモノハ國民ノ大多數ノ消費ニ
屬スル、而モ生活必需品ト云フ見地カラ、
綿織物ダケニ付テ免稅ヲ致スコトニ致シタ
ノデアリマス、此綿織物ノ範圍ヲ定メマス
ルニ付テ勿論、全部綿織物ヲモナラバ
問題ハ無イノデアリマス、他ノモノガ幾分
加ハタ場合ニ於テモ、是ガ百分ノ五以下、
他ノモノガ加ハタモノニ付テハ、是ハ綿
織物ト見ルト云フコトニ致シテ居ル、併シ
絹デアアルトカ、或ハ金屬絲デアアルトカ、金
屬線デアアルトカ、其他イロノモノガ加
ハタ一條ノ二ニ掲ゲテアリマスヤウナモ
ノガ加ハタモノニ付キマシテハ、是ハ其
織物ハ實用ト云フヨリハ寧ろ裝飾ト云フ即
チ贅澤ナ意味ノモノニ相成ルノデアリマス
カラ、是等ノモノハ綿織物、サウ云フモ
ノガ這入りマシタナラバ綿織物トハ見ナ
イ、ソレガ百分ノ五以下デアリマシテ、極
端ニ申シマスレバ一本這入、テ居タラト申
シマスレバ、サウ云フモノハ絹織物トハ見
ナイト云フコトニ致シマシタ、是ハ御承知
ノ通り、現行關稅定率法ニ依リマシテモ大
體之ニ依テ規定イタシテ居ルノデアリマ
ス、ソレト歩調ヲ合セテ居ルノデアリマ
ス、唯、一條ノ二項ニ掲ゲタ絹紡細絲、芭
蕉絲ト云フ風ナモノニ付キマシテハ、是ハ
絹紡細絲ト申シマスルノハ、絹紡紡績ノ工程
ノ中ニ出來マスル廢物ヲ利用イタシマシテ
拵ヘル絲デアリマシテ、是等ノ絲ノ價格ト
云フモノハ絹ト比較シマシテ絲ノ價格ニ於
キマシテモ大シテ違ヒハ無イノデアリマス、

從テ其織リマシタ、絹紡細絲ヲ以テ織
リマシタ絹紡細ト云フモノハ、大體ハ下級
品ニ屬シテ居ルノデアリマス、一般庶民階
級ノ常用品ニナリマスルノデ、此綿織物ト
大シタ違ヒハ無イノデアリマシテ、其用途
カラ見マシテ、綿織物ト同一視スベキモノ
デアラウト云フコトデ、之ヲ綿織物ノ取扱
ヲ致スト云フコトニナツテ居リマス、芭蕉
絲ヲ以テ織リマシタモノニ付キマシテハ、
是ハ即チ芭蕉布デアリマスルガ、是ハ沖繩
縣ニ於キマシテハ氣候ノ關係等カラ致シマ
シテ内地ノ綿織物ヲ用キマス代リニ、一般ニ
芭蕉絲ヲ以テ織リマシタ芭蕉布ヲ用キテ居
ルノデアリマス、上下ヲ通ジテ之ヲ用キテ
居ルノデアリマシテ、從テハ沖繩縣ニ於
キマシテハ内地ノ綿織物ト同ジヤウナ關係
ニナルモノデアアルト考ヘマシテ、是モ綿織
物ト同ジヤウニ取扱ヒマシタ、其他ノ命令
ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ織タモノニ付キ
マシテハ、是ハ是等ニ準ジマシテ、即チ或
ハ葛布デアアルトカ、色ミナモノガ他ニア
ルノデアリマスガ、紙布デアアルトカ、斯ウ云
フモノニ付キマシテハ尙ホ十分ニ考究イタシ
マシテ、大體、其用途ガ綿織物ト同ジヤウ
ナ用途ニ屬セラレ、同様ニ取扱フコトガ適
當デアアルト考ヘラレマスヤウナモノニ付キ
マシテハ命令ヲ以テ定メマシテ、之ヲ綿織
物ト看做シテ免稅ヲ致スト云フコトニ致シ
タイ考ヲ有、テ居ルノデアリマス、ソレガ
改正ノ主要點デゴザイマスルガ、此規定ノ
二十三條ニ色ミナ綿織物ニ適用シマスル條
文ヲ掲ゲテ居リマスルガ、是ハ綿織物ガ今
度消費税ガ廢止サレマシテ、綿織物ハ是ガ
課稅ヲサレナイト云フコトニナリマシテモ
綿織物ヲ製造イタシテ居ル所ニ於キマシテ
絹ヲ交ゼタモノヲ織ルコトハ、或ハ絹物ヲ
織ルト云フコトハ極ク容易デアアルノデアリ

テ、是ガ一般ノ普通ノ必需品ニ適當デア
ルト云フ風ナコトニナリマシタ。曉ニ於キマシ
テハ格別デアリマスガ、今日ノ狀態ニ於キ
マシテハ、マダ人造絹ト云フモノハ必需品
ト云フモノノ中ニハ這入ラヌカノヤウニ考
ヘテ居ルノデアリマス、ソレ故ニ寧ロ今日、
綿織物ノ中ニ人造絹ノ交ゼマスルノハ、是
ハ外觀ヲ綺麗ニスル、少シ奢侈的ノ意味ガ
加ハルモノト云フコトノ考カラ除キマシタ
次第デアリマス

○左右田喜一郎君 唯今ノ御説明デ御趣意
ハ能ク分リマシタガ、唯一ツ御參考ノ爲ニ
申上ゲテ置キタイト思ヒマスルガ、本年貴
族院ニ對スル請願ノ中ニモ、人造絹絲ヲ交
ゼタ綿織物ダケハ矢張り綿織物ト同様ニ
扱テ吳レト云フ實際ノ例ガ一ツアリマス
ノデ、此事ハ他日其價額ガ段々減ッテ來レ
バ減ッテ來ル程サウ云フ問題ガ起ッテ來ルカ
ト思ヒマス、デ片方ノ絹、生絲ニ對スル重
要ナ關係モアリマスカラ、ソレデ是ハ若シ
價格ト云フ點デ之ヲ御除キニナッタイト云フ
コトデアレバ、將來ハモット同ジヤウナ扱ヲ
シナケレバナラヌヤウナ時期ガ來ルカト云
フヤウナ考ヲ以テマシテ御質問ヲシタノデ
アリマス

○委員長(子爵前田利定君) モウ左右田君
宜シウゴザイマスカ

○左右田喜一郎君 ハイ

○委員長(子爵前田利定君) 然ラバ先キニ
進ミマス、賣藥稅法、是ハ廢止サレルコト
デアリマスカラ別ニ問題モ無イト思ヒマス

○左右田喜一郎君 チョット賣藥稅法ニ付
テ……

○委員長(子爵前田利定君) ソレナラ問題
ニ致シマス、賣藥稅法廢止法律案ニ付テ御
質疑ガゴザイマスナラバ此際……

○左右田喜一郎君 先日御願ヒ申上ゲテ置

キマシタノデ、或ハ調査困難ト云フコトハ其節水リマシタカラ、表ナドハ御出来ニナラヌカト存ジマスガ、賣藥ノ中ノ嗜好品トソレカラ所謂山間僻遠ノ地ニ在テ藥トシテ用キテ居ルモノノ量ニ付テノ統計ガアリマスレバ戴キタイト云フコトヲ申上ゲテ置キマシタガ、如何デゴザイマス

○政府委員(黒田英雄君) 先日御希望ガアリマシテ、内務省トモ相談イタシマシテ調査ヲ致シテ見マシタノデアリマスガ、内務省ノ方ニモ賣藥ノ種類等ノ調査アリマセヌサウデアリマス、御希望ノヤウニ賣藥ヲ分ケマシテ、今日、茲ニ數字ヲ調査イタスコトガ出来ナイノデアリマス、大蔵省トシテハ勿論アリマセヌノデアリマス、ソレデ内務當局ニモ色々聽イテ見マシタノデアリマスガ、所謂御指摘ノ嗜好品トモ申シマスル部類ニ屬シマス、嗜好品ト申シマスノガ適當デアリカドウカ分リマセヌガ、無論御指摘ノヤウニ意味ヲ以テマシテ分チマス、サウ云フモノハ大體一割内外ノモノデナカラウカト云フ見當サウデアリマス、正確ナ數字ハ前申上ゲマスヤウニアリマセヌノデ、遺憾ナガラ作製ヲ致スコトガ出来マセヌ

○委員長(子爵前田利定君) 然ラバ骨牌稅法中改正法律案ニ移リマス、一應ノ御説明ヲ政府委員ニ求メマス

○政府委員(黒田英雄君) 骨牌稅ニ付キマシテハ御承知ノ通り、是ハ所謂奢侈ノ消費ニ屬スルモノト考ヘルノデアリマシテ、之ニハ相當増徴シテ然ルベキモノデアルト考ヘマス、今回、必需品ニ對スル減免稅ヲ行ヒマス同時ニ、嗜好品ニ屬スル飲料等ニハ増稅ヲ致シテ居ルノデアリマス、隨テ斯ノ如キ奢侈ノ消費ニ屬シマスル分ニ對シテハ、相當増徴スルコトガ適當デアラウト云

フ風ニ考ヘマシタノデアリマス、殊ニ此骨牌稅ニ付キマシテハ明治三十五年ニ實施イタシマシタ以來、其後一回モ増稅イタシタコトガ無いノデアリマス、變ヘマシタコトガ無いノデアリマス、ソレニ一般物價ノ騰貴カラ見マシテモ、今日ノ稅額ハ極メテ低イ稅額ニ相成テ居ルヤウデアリマス、施行ノ當初ニ於キマシテ、此法案ガ議會ニ提案サレマシタ時ニ政府委員ノ説明イタシテ居ルノヲ見マスルト云フト、大體、其頃ノ骨牌ト云フモノハ一組ガ平均六錢位ノモノデアッタヤウデアリマス、六錢位ノモノニ對シマシテ五十錢ノ稅ヲ課スルト云フコトニ相成テ居ッタノデアリマス、然ルニ今日ハ……五十錢デヤアリマセヌ、二十錢カケルト云フコトニ相成テ居ルノデアリマス、最近ニ於キマシテハ稅拔キノ價格ニ致シマシテ六七倍ニ騰貴致シテ居ルヤウナ狀況デアリノデアリマス、是カラ申シマスレバ、尙ホモウ少シ増稅イタシテモ宜イト云フ風ナ結論ニモ參ルノデアリマス、餘リ急激ニ増シマスコトモ如何カト考ヘマシテ、大體、今日ノ二十錢ヲ五十錢ト致シタノデアリマス、[「マージャン」ニ付キマシテハ、近來「マージャン」ガ大ヘン流行シテ參チ居ルヤウデアリマス、此「マージャン」ハ概シテ高級品ニ屬シテ居ルノデアリマス、負擔ノ能力ノアリマス階級ニ多ク使用サレテ居ルト云フ狀況デアリマス、其價格モ相當ニ高イノデアリマス、之ニ付キマシテハ一組三圓ト云フコトニ致シマシタ次第デアリマス、ソレカラ現在ニ於キマシテハ此免許料……骨牌ノ製造者ニ對シテ免許ヲ致シマシテ、毎年金額デ免許料ヲ取ツテ居リマスノデアリマス、然ルニ此免許料ハ極メテ少額デアリマシテ、年ノ收入ガ僅ニ二千圓内外ニ過ギナイト云フ風ナ少額デア

ノデアリマス、又免許者ノ數モサウ澤山ゴザイマセヌ、極ク少數ナモノデアルノデアリマス、此間接國稅ノ中ニ於キマシテモ、今日、免許料ヲ取ツテ居ルモノガ少イノデアリマスカラ、是ハ特ニ存置スル必要ハ無カラウ、今回、骨牌ノ稅率ヲ上ゲマス際ニハ寧ろ廢止シタ方ガ整理上宜シイト考ヘマシテ廢止イタシタノデアリマス、ソレカラ二十一條ノ二ヲ加ヘマシタノハ、稅率ガ違フ場所ニ於キマシテ、地方カラ骨牌ガ這入テ參リマススト云フコトガアリマス困ルノデアリマス、取締上困ルノデアリマスカラ、是ハ同ジ稅率ヲ適用イタシマス所ハ格別デアリマスガ、然ラザル場合ニ於テハ、骨牌ノ移入ヲ許サナイト云フコトニシタノデアリマス、ソレカラ骨牌稅ニ付キマシテ、附則ニ於テ他ト違テ居ルト申上ゲマスコトハ、免許料ニ付キマシテハ、施行前ニ免許ヲ受ケマシタ者ノ大正十五年度ノ免許料タケハ是ハ取ル、是ハ前納イタスコトニナツテ居リマスノデ、是ハ取ルコトニ致スノデアリマス、十五年即チ施行後ニ免許イタシマスモノ、若クハ十六年以後ノモノカラ始メテ免許料ヲ廢スルコトニ致スノデアリマス、ソレカラ本法施行ノ際ニ、骨牌ノ製造販賣ヲ致シマス者ノ有ツテ居リマス骨牌ニ付テノ取扱ヒデアリマスガ、是ハ今日、製造者ガ有ツテ居リマス、若クハ販賣者ノ店頭ニアリマスモノニ於キマシテモ、現在二十錢ノ印紙ガ貼テアリマスモノハ、是ハ其不足ノ印紙ヲ増貼サセルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ取締上カラ見マシテ必要ナノデアリマシテ、即チ店頭ニアリマス骨牌ガ、果シテ四月一日以前ニ製造シマシタ骨牌デアルカ、四月一日後ニ製造サレテ居リマス骨牌デアリマスルカト云フコトヲ見分ケマスコトガ困難

デアリマシテ、從テ脫稅ノ弊ヲ生ズルノデアリマス、四月一日以後デモ、二十錢ノ印紙ヲ貼タモノヲ出スト云フ風ナコトニ依リマシテ、取締ガ出来ナイコトニ相成ルノデアリマスカラ、是ハ總テ増貼ヲスルト云フコトニ致シタノデアリマス、是ハ過去ノ織物消費稅アタリノ時ニモ、サウ云フ例ガアッタノデアリマス、取締上、サウ致サヌト云フト不都合ヲ生ジマスル爲ニ、左様ニ致シタ次第デゴザイマス

○委員長(子爵前田利定君) 骨牌稅法中改正法律案ニ付キマシテ説明ガ済ミマシタガ、御質疑ガゴザイマスレバ……御質疑モナサウデゴザイマスカラ、次ニ進ミマス、清涼飲料稅法案、併セテ大正九年法律第五十一號中改正法律案、此兩案ニ付キマシテ政府委員ノ御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(黒田英雄君) 清涼飲料稅ヲ新設イタシマシ理由ニ付キマシテハ、既ニ大蔵大臣モ御説明ヲ申上ゲ、又御質問ニ應ジテ御答ヲ申上ゲテ居ルノデアリマスカラ、是ハ省略イタシタイト考ヘルノデアリマス、直ニ清涼飲料稅法案ノ内容ニ付テ御説明ヲ申上ゲタイト思ヒマス、清涼飲料稅即チ清涼飲料稅ヲカケマスル清涼飲料ト申シマスルノハ、第一條ニ其定義ヲ掲ゲテ居ルノデアリマシテ、炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ト云フ風ニ致シタノデアリマス、炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ニ限リマシタノハ、大體、此清涼飲料稅ヲ設ケマシタ理由ヲ申上ゲタヤウニ、一方ニ於テハ、麥酒ノ代用品トシテ飲用サレルト云フ點、又炭酸瓦斯ガアリマスル爲ニ、非常ニ此飲料ト致シマシテ特殊ノ刺激ヲ致シ、特殊ノ働き、味ヲ有テ居ルト云フ風ナ關係カラ致シマシテ、此炭酸瓦斯ヲ含有シテ居ルモノヲ以テ清涼飲料ト云フコトニ致シタノデアリマス、勿論、

其他ニ於キマシテモ、或ハ「シロップ」或ハ「カルピス」トカ、蜜柑水トカ云フ風ナモノモ飲料トシテアルノデアリマスルガ、是等ハ一方カラ申シマスと云フト、サウ云フモノニ課稅ヲシマスレバ、一切ノ砂糖ヲ含有シテ居ル飲料、進ムデ又一般ノ此飲料水ニマデモ及ブト云フ風ナ形ニモナルノデアリマス、又「シロップ」「カルピス」等ハ、此炭酸瓦斯ヲ含ムデ居リマスル飲料ニ比較シマシテ、砂糖ノ含有量ガ概シテ多量デアルノデアリマシテ、砂糖消費稅ヲ負擔イタシテ居ル關係モアルノデアリマス、又ソレ等ノ消費ノ取締ノ上ニ於キマシテモ、範圍ヲ擴メマスと云フト、實行上ニ於キマシテ色々困難ヲ伴フノデアリマス、從テ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノニ限リマシタ次第デアリマス、炭酸瓦斯ヲ含ムデ居リマスルモノニ付キマシテモ、全重量ノ中デ万分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含ムデ居ルモノト云フモノハ、是ハ除キマシタノデアリマス、即チ万分ノ五以上ノ炭酸瓦斯ヲ含ムデ居ルモノヲ清涼飲料ト申スノデアリマス、是ハ方々ノ井戸水ニ於テ調ヲシテ見タノデアリマスガ、普通ノ井戸水デモ或ル僅ノ炭酸瓦斯ヲ含ムデ居ルモノハ隨分アルノデアリマシテ、從テ微量ノ炭酸瓦斯ヲ含ムデ居ルモノヲ課稅イタシマスと云フト井戸水マデニモ課稅シナケレバナラヌト云フヤウナ結果ニモナルノデアリマスカラ、或ル程度ニ之ヲ制限ヲ致ス必要ガアルノデアリマシテ、大體万分ノ五デ以テ制限ヲ致セバ適當デ、ソレ以上ニ無論含ムデ居ル普通ノ飲料ノ井戸水ト云フモノハ無イノデアリマスカラ、茲ニ區分ヲ設ケマシタ次第デアリマス、又酒精ニ付キマシテハ、是モ酒精含有飲料稅ノ説明ノ時ニ申上デマシタ通り、廣ク酒精ヲ含ムト云フモノハ、是ハ色々ナ關係カラ致シマシテ、多

少ノ醱酵ヲシテ酒精分ヲ含ムヤウナコトモ起ルノデアリマス、併シ極ク微量ナ、即チ全容量ノ百分ノ一以下ノ酒精ヲ含ムデ居リマスモノハ、是ハ普通ノ清涼飲料トシテモ宜シイノデアリマスルガ、ソレ以上ヲ含ムト云フモノハ、特ニ此酒精ヲ加ヘタト云フヤウナコトニナルノデアリマシテ、左様ナ場合ニハ酒精含有飲料トシテ取扱フト云フコトニ致シタノデアリマス、ソレカラ清涼飲料ノ稅率ノ點デアリマスルガ、之ニ付テハ從價稅ニスルノガ宜イデヤナイカト云フ風ナ御議論モアリマシタヤウデアリマスガ、是ハ取扱上、徵稅上ニ於キマシテ、非常ニ煩瑣デアリマシテ、非常ニ官民トモニ不便ヲ來スノミナテズ、色々ナ弊害ヲ生ジマシテ、從テ從價稅ヲ取リマセヌデ、容量ニ依リマシテ課稅ヲスルト云フコトニ致シタノデアリマス、併ナガテ其中デ種類ニ依リマシテ稅率ノ區分ヲ致シタノデアリマス、其中、第一種ト致シマシテ玉「ラムネ」塚詰ト云フモノヲ置イタノデアリマスガ、此玉「ラムネ」塚詰ハ、普通ノモノガ十圓ニ對シマシテ七圓ト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、是等ハ、ソレ等ノ消費ガ、主トシテ此庶民階級ニ飲用サレルモノデアリマシテ、其品質モ多少外ノモノヨリハ粗雜デアリマス爲ニ、自然ニ此腐敗ヲ致シテ廢棄サレル部類モアルノデアリマシテ、ソレ等ノ腐敗廢棄サレルモノモ考慮ニ入レマシテ、此腐敗廢棄ヲサレタ時ニ稅ヲスルト云フコトニナリマスと云フト、是ハ非常ニ取扱上困難デアリマシテ、手數ヲ要シマスルノミナラズ色々ナ弊害ヲ生ズル虞ガアリマスカラ、其方ハ之ヲ止メマシテ、寧ロ稅率ノ中ニ之ヲ加味スルコトガ適當デアルト考ヘマシテ、之ヲ加味イタシマシタ、尙ホ價格

ノ點カラ申シマシテモ普通ノ「サイダー」等ニ比較イタシマシテ、幾ラカ之デ低クスルコトガ適當デアラウト云フ所カラ、大體三割ヲ低ク致シテ、即チ一石七圓ト云フコトニ致シタノデアリマス、ソレカラ普通ノ炭酸水ヲ含ムデ居ルモノデアリマスガ、是ハ普通塚詰ニ致シテ販賣スルノデアリマスカラ、其塚詰ニ致シタモノニ付キマシタハ一石ニ付キ十圓ト云フ率ニ致シタノデアリマス、是ハ數字上ニ於キマシテ、十圓ト云フコトヲ算出スル的確ナル根據アリマセヌガ、麥酒ヲ二十五圓ト致シマシタ點カラ考慮イタシマシテ、一方ハ酒精ヲ含ムデ居ル、此方ハ含ムデ居ラヌト云フコトカラ考ヘマスト、大體、十圓ト云フ程度ガ適當ト考ヘタノデアリマス、ソレカラ第三種ト致シマシテ、塚詰ニ致サナイ販賣ヲ致シ消費ニ供スルモノデアリマス、是ハ瓦斯ヲ製造シ若クハ液體瓦斯ヲ購入ヲ致シマシテ、サウシテ店頭ニ於キマシテ之ヲ水若クハ「シロップ」ヲ混ゼタモノニ混入ヲ致シマシテ、サウシテ消費ニ供スルト云フヤウナモノニ付キマシテハ、其店頭デ拵ヘマスル飲料ノ石數ヲ量リマスと云フコトハ困難デアリマス、「コップ」ノ數デ以テモ量レヌコトモナイノデアリマスルケレドモ、是ハ非常ニ實行上困難デアリマスルシ、取締上ニ於キマシテモ非常ニ困難デアリマスルカラ、寧ロ斯ウ云フモノニハ使用ヲスル所ノ炭酸瓦斯ヲ押ヘマシテ、其炭酸瓦斯ノ量ニ依ッテ課稅ヲスルト云フコトニ致シタノデアリマス、即チ三種ノ塚詰以外ノモノニ付キマシテハ、炭酸瓦斯ノ使用量「キログラム」ニ付キマシテ三圓ト云フコトニ致シタノデアリマス、炭酸瓦斯ヲ混入イタシマスルコトハ、其溫度ニ依ッテ其炭酸瓦斯ノ混入量ト云フモノガ違フノデアリマス、攝氏十五度ノ場合ニ於キマシテ同容量ノ炭酸瓦斯ヲ

飽和スルコトニ相成ルノダサウデアリマスルガソレヨリ溫度ガ下リマスと云フト、多クノ炭酸瓦斯ヲ其處ニ含マセルコトガ出來マスシ、溫度ガ昇リマスと云フト炭酸瓦斯ガ自然ニ放散ヲ致シマシテ、少クナルト云フヤウナ關係ニ相成ルノデアリマス、ソレ故ニ一定ハ致シテ居リマセヌガ、大體是ガ冷タクシテ涼味ヲ有セナクチャナラヌモノデアリマスルカラ、溫度ヲ相當低クシテ拵ヘマスルモノ、又使用サレルモノト云フヤウナ點カラ考ヘマシテ計算ヲ致シマスと云フト、平均イタシマシテ大體「キログラム」ノ炭酸瓦斯カラシテ、炭酸瓦斯ヲ使用イタシマスル時分ノ損失量等モ多少考慮イタシマシテ、曹達水ガ一石平均ハ八斗内外ヲ得ラレルヤウデアリマス、之ニ約二割位ノ「シロップ」ヲ加ヘマスルト云フト、清涼飲料水ガ二石一二升ノモノヲ得ラレルノデアリマス、左様イタシマスと云フト、結局、「キログラム」三圓ト云フ稅率ハ、清涼飲料一石當リニ致シマスと云フト、十三圓餘位ニ相成ルノデアリマス、大體、左様ナ此「コップ」デ「コップ」賣リマシマスルモノハ、大體、此消費ガ幾分贅澤ノ消費ニ屬スルノデアリマス、ソレ故ニ之ニ對シテハ幾分重イ負擔ヲカケルコトガ、他トノ權衡上適當デアラウト云フ關係カラ致シマシテ、左様ナ稅率ニナリマスヤウニ、三圓ト云フ稅率ヲ盛リマシタノデアリマス、是ハ先程例ニ採リマシタノハ、店ニ於テ直グ客ノ需メニ應ジテ「コップ」ニ瓦斯ヲ入レテ出スノデアリマスガ、尙ホ其他ニ一ツノ「タンク」ノ中ニ炭酸瓦斯ヲ使用イタシマシテ曹達水ヲ造ラヘテ、サウシテ其曹達水ヲ「タンク」ニ詰メマシテ、サウシテ其「タンク」ヲ販賣スル者モアルノデアリマス、其「タンク」ヲ買テ參リマシテ、サウシテ其「タンク」カ

ラ「コッブ」ニ多少「シロップ」ヲ入レテ置キマシテ其炭酸水ヲ注入シテ、サウシテ御客ニ出スト云フモノモアルノデアリマス、是ガ一番多イノデアリマシテ、普通ニ御客ノ面前ニ於テ「コッブ」ニ「パイプ」カラ注ギマスルモノハ多ク炭酸水ニナッテ居リマス、「タンク」ノ中ニ炭酸瓦斯ト水トヲ混和シタモノヲ買入レテ致シテ居ルノデアリマス、其場合ニ於テハ此「タンク」ニ入レル炭酸水ヲ拵上タル所デ課税ヲ致スノデアリマス、ソレニ使「タ炭酸瓦斯」ノ容量ニ對シテ三圓ノ税ヲカケルノデアリマス、ソレ故ニ其炭酸瓦斯ノ「タンク」ヲ出シマシタ時ニ於テ課税ヲサレルノデアリマシテ、其「タンク」ヲ買ヒマシテ、普通ノ小賣屋トカ云フヤウナ所デ消費イタシマスル時ニ於テハ、ソレハ最早課税ヲ致サナイノデアリマス、即チ「タンク」入ノ炭酸水ヲ拵ヘタ時ニハ、三種ノモノヲ拵ヘタモノト看做シマシテ、其モノニ課税ヲ致スト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、天然ニ湧出シマスル炭酸水ヲ堀ニ詰メル所モアルノデアリマス、是ハ天然ニ湧出シマスル炭酸水ヲ堀ニ詰メマシタ時ニハ、矢張り清涼飲料ヲ製造シタモノト看做シテ、一石十圓ト云フ税ヲカケルコトニ致シテ居リマス、即チ第二種ヲ拵ヘタモノト看做スコトニ致シテ居リマス、ソコデ「コッブ」デ以テ一杯ヅ、天然ニ湧出シマシタ炭酸水ヲ汲出シマシテ「コッブ」ニ入レテ直グ賣ルト云フモノニハ、是ハ課税ヲ致サナイ積リデアリマス、堀ニ詰メテ賣出スト云フ風ナモノダケニ付テ課税ヲスル積リデアリマス、又天然ノ炭酸水ヲ「タンク」等ニ入レマシテ、サウシテ之ニ瓦斯ヲ注入シテ供給ヲスルト云フ風ナモノガアリマシタナラバ、ソレモ矢張り取締上カラ第二種ノモノヲ拵ヘル、其時ハ堀詰ハ拵ヘナイノデア

リマスケレドモ、堀詰ヲ拵ヘタモノト看做シテ、一石十圓ト云フ税ヲカケルノデアリマス、其場合ニ於テハ天然ノ炭酸水デアリマスカラ、炭酸瓦斯ヲ捉ヘテ天然ノ炭酸瓦斯ノ使用料ヲ見マスルコトハ非常ニ困難デアリマス、止ムヲ得ズ其時ハ堀詰ハ拵ヘテ居リマセヌガ、堀詰カラ炭酸水ヲ拵ヘタモノト見テ、サウシテ一石十圓ノ税ヲカケルコトニ致シテ居ルノデアリマス、是ガ三條ノ二項ノ規定デアリマス、左様ナ次第デアリマシテ、清涼飲料水ヲ拵ヘマスモノハ政府ノ免許ヲ受ケマシテ、其場所ニ於テミナクチャ拵ヘラレナイ、サウシテ、其製造場カラ出シマシタ時ニ於テ、其出シマシタモノニ對シテ課税ヲスルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、其出シマシタモノヲ製造場ニ於キマシテハ毎月調査ヲ致シマシテ、翌月ノ十日マデニ之ヲ申告イタシマシテ、翌月ノ末日マデニ之ヲ納付スル、詰リ翌月マデニ前月分ヲ納付スルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、唯、製造場内ニ於テ出來タ清涼飲料ヲ直グ其處デ御客ニ供スルト云フ風ナモノハ、是ハ製造場外ニ出シタモノト見ル、又製造場内ニアリマスモノガ公賣ニ付セラレタト云フヤウナ時ニ於テモ、是モ製造場カラ出タモノト見ル、製造ノ免許ヲ取消サレタ時ニ、製造場内ニアリマシタ場合ニ於テモ、矢張り是ハ製造場外ニ出タモノト見テ矢張り課税ヲスルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、サウ云フヤウニ課税ヲ申告主義ニ執リマシテ、移出シタモノニ對シマスル申告主義ニ執リマシタ結果、是ニハ相當取締ヲ要シマス、之ヲ若シ酒ノ如ク査定ヲ致スト云フ主義ヲ執リマスと云フト、清涼飲料ノ如ク夏期ニ於テ製造リマシテ直ク之ヲ出サナクチャナラヌ、拵ヘルト直グモウ配

達ヲシテ販賣店ニ配ルト云フ風ナ場合ニ於キマシテ、之ヲ一々査定イタスコトニ致シマスと云フト、非常ニ手數ヲ要シマスルノミナラズ、官吏モ澤山要リマスルシ、又營業者ト致シマシテモ非常ニ迷惑ヲ蒙ルコトニ相成リ、取引ヲ敏活ニ致スコトニ付テハ非常ニ障害ニナラウト思フノデアリマス、ソレ故ニ査定ノ方法ヲ執リマセヌデ、申告主義ヲ執「タノデアリマス、申告主義ヲ執リマシタ以上ハ即チ營業者ノ自發ニ俟ツコトデアリマスルカラ、相當ニ對シテハ取締ノ方ハ嚴格ニ致サナケレバナラヌノデアリマス、從テ取締ノ規定ヲ數箇條設ケテ居ルノデアリマシテ、帳簿ヲ設ケサシテ、サウシテ出入ヲ記載セシメルト云フ風ナコトニ致シテ、時々、稅務官吏ガ其帳簿物件ヲ檢査スルト云フ風ナコトヲ致シマシテ、營業者ノ整理ニ俟チマスルト同時ニ、一方ニハ取締モ相當ニ致スト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、外國ニ清涼飲料ヲ輸出イタシマシタ場合ニ於テハ、是ハ戻稅ヲ「免税イタスコトハ適當ト考ヘマシテ、外國ニ輸出スル目的ヲ以テ製造場外ニ出シマシタ清涼飲料ニ付キマシテハ、命令ヲ以テ定メマシテ適當ノ取締ヲシテ、指定アル期間ノ中ニ、詰リ六箇月内ニ外國ヘ輸出シタト云フ證明書ヲ持ッテ參リマシタナラバ、之ヲ免除スルト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、唯、一旦此製造場カラ出マシテ、市中ニアリマスルモノヲ外國ニ輸出スルト云フ風ナ場合ニ於キマシテハ、是ハ免税ヲ致サナイコトニシテ居ルノデアリマス、是ハ査定ヲ致サナイノデアリマスルカラ、果シテ其清涼飲料ガ納稅ヲ致シタモノナリヤ否ヤト云フコトヲ見ルコトハ困難デアリマスルカラ、是ニハ免税ヲ致サナイ、唯、製造場カラ、初メカラ是ハ外國ニ

輸出スルモノデアリマスルト云フコトヲ極メマシテ、手續ヲ致シマシタ場合ニ於テハ、課稅ヲ致サナイト云フコトニ致シテ居ルノデアリマス、ソレカラ清涼飲料ニ付キマシテハ、政府ハ必要ガアル時ニハ納稅ノ保證トシテ擔保モ提供セシメルコトガ出來ルト云フ規定ヲ設ケテ居リマスルガ、是ハ必要ト認メタ場合デアリマシテ、輸出シマシタ後デ翌月納メルト云フコトニモナルノデアリマスカラ、必要ナ場合ニハ擔保ヲ出サセヤウシ、而シテ擔保ヲ納メルト云フコトニ致シマスレバ、現在ノ小資本ノモノニハ隨分苦痛ニモナラウカト思ヒマスルカラ、是ハ必要ナ場合ニ於テ此規定ヲ適用スルト云フコトニ致シタ次第デアリマス、他ノ色色ナ取締ノ規定、或ハ罰則ト云フ風ナモノニ付キマシテハ、他ノ間接稅ノ方ニ於キマシテ規定サレテ居リマスルモノト大體同ジデアリマス、特ニ之ニ付テ大シタ變タ規定モ無イ次第デアリマス、ソレカラ大正九年ノ法律第五十一號中ノ改正法律案デアリマスルガ、是ハ直グ次ノ參照ニ載ッテ居ルダケノ法律デゴザイマシテ、是ハ内地臺灣樺太カラ朝鮮ニ移出シタ場合ニ於キマシテ、內國稅ヲ免除スル、拂戻シ、交付金ヲ交付スルト云フ規定デアリマスルガ、此中デ醬油ガ内地ニ於テハ免税ヲ致スノデアリマス、從テ醬油稅ノ戻稅ノ必要ハ無クナルノデアリマス、免税ノ必要モ無クナルノデアリマス、ソレカラシテ賣藥、石油ト云フモノハ既ニ無クナッテ居リマスルガ、是ガ直サズニ殘ッテ居ルノデアリマス、此際石油モ削リマス、賣藥ト賣藥類似品ト云フモノモ今度規定ガ無クナリマスノデ、是モ省ク、サウシテ此清涼飲料ト云フモノガ新タニ出來マシタカラ、清涼飲料ヲ移出シマシタ場合ニ於テ此命令ノ定ムルトコロ、即

チ朝鮮ニ出スト云フ手續ヲ致シテ居リマス
モノハ免除イタシタイト考ヘテ居リマス
ラ、其清涼飲料ノ之ヲ加ヘルト云フコトニ
致シタノデアリマス、是ハ衆議院ニ於キマ
シテ、樺太ニ本年ハ醬油稅ヲ廢止セナニ
拘ラズ醬油稅ヲ創ルノハドウカト云フ風
ナ、如何ニモ政府ノ手落デアルヤウナ御質
問ガアリマシタガ、是ハ大體内地カラシテ
朝鮮ニ出テ行キマスルモノニ付キマシテ、
醬油稅ヲ免除スルト云フ……炭稅スルト云
フ必要カラ出来テ居ルノデアリマシテ、樺
太カラ朝鮮ニ行クモノノ炭稅ヲシヤウト云
フ爲ニ特ニ出来タモノデハナイ、内地ガ主
デアリマスカラ、自然、臺灣樺太ト云フモ
ノモ這入テ居ラタノデアリマス、内地ノ醬
油稅ガ無クナリマスレバ、特ニ之ヲ樺太ノ
爲ニ存置スル必要モ無イト考ヘマシテ創
タノデアリマシテ、決シテ手落トカ何トカ
云フ次第デハナイノデアリマスガ、唯、問
題ニナリマシタカラ、併セテ御説明申上
テ置キマス

○西野元君 此清涼飲料水ヲ適用スル飲物
ニ付テ、炭酸瓦斯類ヲ全重量ノ万分ノ五以
下……：万分ノ五以上ト云フコトデアリマス
ガ、普通ニ所謂平野水トカ炭酸トカニテ
居ルモノハドウ位、水ノ重量ノ何「パーセ
ント」位含ムデ居ルモノデアリマスガ、一
向、其邊ノコトハ解リマヒヌカラ、チヨット
伺ヒマス

○政府委員(藤井眞信君) 普通ノ「シトロ
ン」、「サイダー」等ハ炭酸瓦斯ヲ大體ニ於
テ千分ノ六、七ヲ含ムデ居リマス

○西野元君 万分ノ六、七十デスカ

○政府委員(藤井眞信君) 万分ノ六、七十
位ニナリマス、千分ノ六、七デアリマス

○西野元君 先刻、私ノ伺ヒ違ヒカモ知レ
マセヌガ、政府委員ノ御説明ヲ第三種ノ方

ニ付テ、所謂學語以外ノ清涼飲料ニ付テ、
一「キログラム」ノ使用ノ結果トシテ、何カ
一石八斗ノ水ニ何ガシカノ「シロップ」ヲ加
ヘテ二石餘リノ飲料ガ出来ルト云フヤウニ
伺ヒタノデアリマスガ、サウシマス、炭酸
瓦斯使用量一「キログラム」ニ付テ三圓ノ稅
ヲカケマスルト、ソレガ二石餘ニ對シテ三
圓ノ稅ヲ取ルト云フ結果ニナルノデアアリ
マセヌカ、他ノモノトノ均衡ヲ得タト云フ
コトハ何シテ數字上……：私ノ伺ヒ違ヒカ
モ知レヌノデアリマスケレドモ、解リマセ
ヌノデ、御説明ハ普通ノ飲物ニ對スル炭酸
瓦斯ノ含有量ナルモノガ解リマセヌガ、結
局、炭酸瓦斯ノ、學語以外ノモノニ付テノ
炭酸瓦斯使用量課稅標準トシテノ負擔ガ、
他ノモノト、ドウ云フ風ナ權衡ニナリマス
カ、算出ノ基礎ガ無クッタノデ今伺ヒタノデ
アリマスガ、一「キログラム」ノ使用ノ結果
トシテ生ズル清涼飲料水ナルモノハ、學語
以外ノモノニ付キマシテ凡ソドノ位ノモノ
ヲ得ルヤウニナルノデアリマスガ、モウ一
度……

○政府委員(黒田英雄君) 先程御説明申上
デマシタ際ニ、チヨット申誤シテ居ラタカト考
ヘマスガ、改めて申上デマスガ、大體先程
申上デマシタヤウニ溫度ニ依テ違ヒマス
ルガ、大體使用シテ居リマス實際ヲ調ベ
テ見マスルト、平均イタシマシテ炭酸瓦斯一
「キログラム」カラシテ拵ヘマス際ニ、ドウ
シテモ炭酸瓦斯ノ逃ゲル分量ガ相當アリマ
スノデ、結局出来マスル曹達水ト云フモノ
ガ一斗八升内外位ハ出来ル、モト二斗以上
ニナルコトモアリマスシ、或ハ少クナルコ
トモアリマスガ、先ツ平均一斗八升内外デ
ヤナカラウカ、ソレニ「シロップ」ヲ二割位
加ヘルヤウデアリマス、ソレヲ加ヘマスト
云フト二斗一二升……：先程二石ト申上デマ

シタカ知レマセヌガ、二斗一二升出来マス
ノデ、一石當リガ十三圓餘位ニ相成ルト云
フコトヲ申上デタノデアリマス

○左右田喜一郎君 此清涼飲料稅ハ、全體
ガ大變少額ナモノデアリマスガ、色々此法
案ニ於テ、煩瑣ノ規定ノアルコトハ申ス迄
モアリマセヌガ、中ニハ其煩瑣ガ少シ過ギ
テヤシナイカト云フヤウナ氣持ノスル所ガ
アリマス、第五條ノ第一項「製造場内ニ
於テ飲用セラレタルトキ」ト云フノハ、是
ハ賣却セラレタ時ト云フヤウナ先程御説明
デアリマシタガ、全般ニ飲用セラレタト云フ
ヤウナ意味デハナイノデゴザイマスガ、其
事ヲチヨット伺ヒテ置キマス

○政府委員(黒田英雄君) 是ハ製造場内ニ
於キマシテ、販賣イタサレヌデモ、飲用イ
タシマシタリ……：或ハ使用人等ガ之ヲ飲
ムトカ云フ場合モ、矢張り製造場外ニ出サレ
タモノト見マシテ課稅ヲ致ス積リデアリマ
ス、勿論販賣イタシタモノハ申ス迄モナイ
ノデアリマス、先程販賣トチヨット例ニ申上
ゲタト記憶イタシマスガ、モウ少シ廣イモ
ノデアリマスコトヲ併セテ申上ゲテ置キマ
ス、ソレカラ立チマシタ序デニ落チテ居リ
マスコトヲ申上デマスガ、家庭等ニ於キマシ
テ近來「サイホン」ト云フヤウナモノヲ拵ヘ
ルト云フヤウナコトガアルノデアリマス
ガ、是ハ取締上到底之ニ課稅スルト云フコ
トハ困難デアリマスノデアリマスカラ、即
チ自家用トシテ家庭ニ於テ拵ヘマスモノ
ハ、是ハ課稅ヲ致サナイ積リデアリマス

○左右田喜一郎君 チヨット何デカ大變煩瑣
ナヤウナ氣ガスルノデ、菓子屋ノ小僧ガ
店先キデ菓子ヲ拵ミ食シテモ主人カラ叱ラ
レヌヤウナモノデ、斯ウ云フ中デ職工ナン
カガ飲ンデ稅ヲ課セラレルノハ、大變煩瑣
ナヤウナ氣ガスル、デソレト同様ニ第十一

條、第十二條ノ、清涼飲料ノ販賣者ト云フ
モノガ「製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭
ニ帳簿ニ記載スヘシ」、是ハマア大キナ資
生堂ミタヤウナ所ハ宜ウゴザイマスケレド
モ、サウデナイ所ハ隨分厄介タト云フヤウ
ナ氣ガスルノデアリマスガ、是ハ小サナ販
賣者マデ之ヲ及ボスト云フノデアリマスガ
○政府委員(黒田英雄君) 是ハ取締上、製
造者ト販賣者ト兩方ヲ見マセヌト云フト、
完全ナ取締ガ出来マセヌノデゴザイマシ
テ、平素ニ於キマシテハ大シタ違ヒハアリ
マセヌガ、多少此反則ノ疑ガアリマスト云
フ風ナ時ニ於キマシテハ、矢張り販賣者ト云
フモノトノ間ニ、ドノ位取引ガアツタカト
云フコトヲ見マセヌト、押ヘルコトガ、出
來マセヌノデ、只今課稅イタシチ居リマス
ル酒ニ付キマシテモ、矢張り酒ノ販賣者ニ
付キマシテ同ジヤウナ規定ガアルノデアリ
マス、清涼飲料ニ付キマシテハ、殊ニ此製
造者ニ多少放任ノ致シテ居リマスル結
果、取締ノ方ニ於キマシテハ、必要ナ時ニ
ハ相當ニ之ヲ調ヘルト云フ途ガナイト云フ
ト、平素自由ニ委スト云フコトガ出来ナイ
結果ニナリマス、先ツ不斷ニハ自由ニシテ、
其代リ差支ナクヤラセル、其代リ多少疑問
ガアレバ相當ニ是ハ調ヘル途ヲ講ジテ置
ク、併シ御話ノヤウニ小サナ駄菓子屋「ラ
ムネ」ノ受入ニ、詳細明瞭ナル帳簿ヲ設ケ
ルト云フコトモ、隨分困難ダラウト思ヒマ
スガ、是ハマア程度デアリマシテ、多ク取
引スル大販賣者ニ付キマシテハ、勿論相當
ナ帳簿モ設ケテ居リマセウシ、又設ケサセ
ルコトニ致シマスガ、小サナ所ニ行キマス
レバ、自然卸シテ參リマス時ニ色々……：何
ト云ヒマスガ卸シテ廻ル者、詰リ製造者ト
小賣店トノ間ニ立ッテ配達スルヤウナ商賣
ガアルヤウデアリマスガ、サウ云フモノガ

自然ソコニ受取判ヲ捺サセルト云フヤウナ
コトモアラウト思ヒマス、マアサウ總テソ
モノニ強行イタス積リデハアリマセヌノデ
アリマス

○男爵藤村義朗君 清涼飲料税ト云フヤウ
ナモノヲ外國デ課税シテ居リマスル例ガゴ
ザイマスカ

○政府委員(黒田英雄君) 只今課税イタシ
テ居リマスルモノハ、英吉利、佛蘭西、獨
逸、伊太利等ニ於テ課税ヲ致シテ居リマス
○男爵藤村義朗君 ソレハ現ニ今日ヤッテ
居ルノデスカ

○政府委員(黒田英雄君) 現在課税イタシ
テ居リマスル國ヲ實ハ申上ダタノデアリマ
スルガ、過去ニ於テハ亞米利加等モ課税シ
テ居ッタコトモアルノデス、多少、此英吉
利、獨逸等ニ於キマシテハ、戰時中ニ課税
イタシテ居リマシタモノヨリハ、少シク其
範圍ヲ狭メテハ居リマスルガ、併シ尙ハ殘
テ居リマスルノハ英吉利、獨逸、ソレカラ
佛蘭西ハズト前カラ……前ノ通り矢張り
課税アラユル一切ノ清涼飲料水ニ課税ヲ
致シテ居リマス、伊太利モ炭酸瓦斯ヲ含シ
デ居リマスル飲料水ニ課税ヲ今日致シテ居
ルノデアリマス

○男爵藤村義朗君 大體今度ノ御提案ハ外
國ノ清涼飲料税ノ條文ヲ御參照ニナッテ御
作リニナッタモノト思ヒマスガ、ドウデス
カ

○政府委員(黒田英雄君) 外國ノ課税ハ色
色ニ相成テ居ルノデアリマシテ、或ハ價
格ニ依リマス所ノ方法モアリマシ、或ハ
拵ヘマス原料ニ……材料ニ依リマスノモア
リマスシ、或ハ炭酸瓦斯ニ依ッタノモアリ
マスシ、又日本ノヤウニ石數ニ依リマスノ
モアリマス、區々ニ相成テ居ルヤウデア
リマシテ、ドウモ外國ニ於キマシテハ矢張

リ色ニナ此製造販賣ノ具合モ多少違フト考
ヘルノデアリマシテ、外國ノ例ニ必シモ依
ルコトハ出來ナイト考ヘマシテ、日本ノ現
在ノ製造販賣ノ狀況ヲ調査イタシマシテ、
日本ノ今日ノ狀況ニ適應スルヤウナ仕組ニ
致シタノデアリマシテ、外國ノ例ニハ依ッ
テ居リマセヌノデゴザイマス

○男爵藤村義朗君 大體ニ於テ、マア私ハ
實ハ此清涼飲料水ト云フモノハ餘リ衛生的
ナモノデハナイ、水道ノ水ヲ飲シタリ、番
茶ヲ飲シタリスルノガ一番咽喉ノ渴キヲ
止メルノニ宜カラウト思ヒマスガ、此課税
ニ反對スルノデハゴザイマセヌガ、聞ク所
ニ依ルト大藏大臣ハ衆議院ニ於テ、麥酒ノ
稅源ヲ涵蓋スル爲ニ清涼飲料水ヲ課税スル
ノダト云フヤウナ御話ガアツタサウデスガ、
目的ハサウスルト麥酒獎勵ト云フコトニナ
ル譯デスカ

○政府委員(黒田英雄君) 大藏大臣ガ御説
明申上ダマシタノハ、一方ニ於テ麥酒ニ於
キマシテハ……麥酒バカリデハアリマセ
ヌ、酒モ矢張りサウデアリマスガ、増税ヲ
致シタノデアリマス、從テ此消費ガ……清
涼飲料ノ消費ハ酒ト下ト比較イタシマスレ
バ、ドチラカト申セバ麥酒ヲ使用サレルヤ
ウナ場合ニ、一方ニハ「アルコール」ノ這入
テ居ルモノヲ好マナイ者ハ、清涼飲料ヲ飲
ムト云フ風ナ關係デ、麥酒トマア相違バヤ
ウナ關係ニ寧ロアルト云フノデ、麥酒ヲ主ト
シテ取ラレタ、又一方カラ申シマススト云フ
ト、酒ヲ飲ムニハ餘リニ「アルコール」ガ強
過ギテ酔フ、寧ロ麥酒位ノ方ガ宜イト云フ
風ナ、所謂酒ニ弱イヤウナ人ガ消費スル場
合ニ於テ、麥酒ノ稅ガ高クナレバ、自然ニ
此清涼飲料ノ方ニ……「アルコール」ノ這
入ッテナイ清涼飲料ノ方ニ移ルト云フヤウ
ナ傾向モ出來テ來ヤウト云フコトヲ懸念サ

レマシテ、ソレハ麥酒ノ飲用ヲ獎勵サレル
趣旨デハナイノデアリマスガ、同ジ課税ス
ル上ニ於テ、稅ノ爲ニ麥酒ノ消費ヲ壓ヘル
ト云フ目的デ稅ヲ設ケル譯デモナイノデア
リマスカラ、唯其人ノ負擔能力ニ於テ負擔
ヲサセヤウト云フ趣意デアツテ、稅ニ依ッ
テ飲酒ノ弊ヲ矯メルトカ何ト云フ風ナ目的
ハ這入ッテ居ラナイノデアリマスカラ、自
然、稅ノ結果ソレノ代用ニナルヤウナモノ
ガ茲ニアツテ、一方ハ稅ガ段々重クナルト
云フト、自然ニ「アルコール」ガ有テモ無ク
テモ宜イ位ノ人ハ無イ方ニ移ル、從テ麥酒
ノ方ガ侵サレルト云フコトニ相成ルノデア
リマスカラ、其點カラ見ルト幾分カ麥酒ノ
稅源ノ擁護ニナルト云フ趣旨デ御話シニ
ナッタラウト考ヘルノデアリマス、之ヲ獨立
シテ考ヘマシテモ、今藤村男爵ノ御話ノヤ
ウニ、清涼飲料ヲ飲ムヤウナ人ハ、相當負
擔能力ガアル、此際ニ於テ租稅ヲ負擔スル
ト云フコトモ適當デアルト云フ考モアリマ
シテ、課税ヲ致シタ次第デアリマス

○男爵藤村義朗君 政府ハ此清涼飲料水ト
云フヤウナモノハ衛生的デアルト御考ヘデ
アルノデスカ、私ハサウ思フテ居ナイノデス
ガ、寧ロ麥湯、番茶ナドノ如キモノガ一番
宜イト思ヒマス、尤モ黒田君ハ酒ノ方ガ宜
イト仰シヤルカ知レマセヌガ、ドンナモノ
デセウ、政府ノ御考ハ……

○政府委員(黒田英雄君) 清涼飲料ニ課税
イタシマスル際ニ於キマシテ、清涼飲料ガ
衛生的カドウデアアルカト云フコトハ、課税
ノ上ニ於キマシテハ餘リ深ク實ハ考究イタ
シタ譯デハナイノデアリマス、併シ清涼飲
料ノ課税ニ依テ、自然無暗ニ清涼飲料ヲ拵
ヘテ、不健實ナ清涼飲料ヲ拵ヘルト云フヤ
ウナ弊モ、幾分カ或ハ押ヘラレルヤウナ結
果ガ出來テ來ルカ知ラヌト思ヒマスガ、併

シ是ハ稅ヲ以テソレヲ目的トシテ致シテ居
ルノデハ毫モナイノデアリマシテ、全體ニ
於キマシテ清涼飲料ガ……今日免ニ角許サ
レテ居ル清涼飲料、是ハ內務省ノ關係ニ於
キマシテ取締ヲ許サレテ居リマス清涼飲料
デアリマスレバ、是ガ消費ノ際ニ負擔サセ
ルト云フ趣意デ課税イタシタノデアリマシ
テ、別ニ是ガ衛生上良イモノデアアルカドウ
カト云フコトニ依ッテ、稅率ヲ變ヘタ譯デ
モアリマセヌシ、又稅ヲ設ケル點ニ於テ考
究……考慮イタシタ譯デハナイノデアリマ
ス

○西野元君 第一種第二種ノ區別ハ全然
容器ノ區分デアツテ、内容ニハ何等ノ關係ガ
ナイノデアリマスカ

○政府委員(黒田英雄君) 第一種第二種
トノ區別ハ大體ニ於キマシテ容器ノ區分デ
アルノデアリマス、併ナガラ稅法ノ立前ニ
於キマシテハ容器ノ區分デアリマスルガ、今
日ノ實際ニ於キマシテハ自然内容ニ於テ
モ幾分カ區別ガアルヤウデアリマシテ、大
體ニ於テ同ジデアリマスルケレドモ、玉「ラ
ムネ」壺詰ト云フ方ハ價格モ幾分カ安クモ
アリマスシ、品質モ所謂「サイダー」、普通
「サイダー」ト云フモノト比較イタシマスレ
バ、幾分カ落チルノデナカラウカト云フ考
デアリマス、併シ玉「ラムネ」壺詰デナ
イ、普通ノ壺ニ這入ッテ居ル「サイダー」ニ
モ、品質ハ區々ニ互フテ居ルヤウデアリマ
シテ、必シモ皆同等品ト云フコトハ申サレ
ヌト思ヒマス、大體「サイダー」「シトロン」
類ト比較イタシマス、ト「ラムネ」ハ價格ニ
於キマシテ同ジ一合ニ於キマシテモ、二割
餘位ノ開キガアルヤウニ大體考ヘテ居リマ
ス、ソレニ先程申上ダマシタ腐敗等モ「サ
イダー」類ニ比較シマススト云フト、幾分カ
腐敗率ガ多イヤウデアリマス、從テソレダ

ケ品質モ或ハ惡イノデハナイカト思ヒマス、腐敗率ガ多イヤウデアリマスカラ、其點モ考慮イタシマシテ、三割ノ差ヲ設ケマシタ次第デアリマス

○仁尾惟茂君 チョット御尋ネ致シタイ、此飲料稅ノ課稅徵收ノ方法デアリマス、第四條ニハ場外ニ移出セラレタル石數ニ應ジテ課稅スル、斯ウアリマス、凡ソ此課稅ヲシマスノニハ先ツ此製造場内ニ於テ其數量ヲ査定イタシマス、若シオッ放シテ製造場ノ門ヲ出テシマフコト云フコトナラバ、即チ店頭印紙稅ニ依リテ取ルヨリ仕方ガナイ、ドウシテモ此場内デ數量ヲ査定スルカ、若シ場外ニ出ルモノトスレバ印紙稅法等ニ依ルヨリ外ニ途ハナカラウト思フノデアリマス、現ニ清酒ノ如キモノハ釀造石數査定デアル、是ハ誠ニ査定スル方モ安心ヲシ、査定ヲ受ケル人モ得心ヲシテ受ケル、是ハ何デアルカト言ヘバ、此釀造方法ト期間トガ決マツテ居ル、先ヅ第一ニ酒ヲ造ルノニハ酵母ヲ取ル、此酵母ト云フモノハ釀造場内ニ於テ凡ソノ位ト云フコトガアツテ、酵母ヲ此位立テレバ此酵母デハ必ズ是ダケノ數量ガ造レルト云フ一ツノ定マリガアリマス、ソレカラ第二ニ 醪ヲ造ル、之ニ付テハ或ハソレニ對シテ水ヲ入レル、十水ノ方法ナドト云フモノガアル、ソレカラ第三ニ清酒ニスル、即チ之ヲ壓搾シテ搾リ上ゲテ行ケバ即チソレヨリ出ヅル所ノ清酒ト云フモノハ、凡ソ米一石ニ對シテ清酒ガ一石ナラ一石、滓ガ幾ラナラ幾ラトチャントドウシテモ爭フベカラザルモノガアルノデアリマス、ソレト又二ツニハ檢査院ガ之ヲ決メルノニハ、豫ネテカラ元ハ出來テ居リマス、「モロミ」ハ何時搾リマス、斯ウ云フ十水ト云フモノハ出テ居リマス、ソレニ依リテ見レバ必ズ是ダケノ元デ以テ、是ダケノ「モロ

ミ」ナラバ是ダケノ清酒ガ出來ルト云フコトガ明カニ分ル、サウシテ又此製造場ノ設備ト云フモノハ、ドウシテモ百石ノ酒ヲ造ルナラバ六尺ノ大キナ桶ハ何本トナク並ベテナケレバナラヌ、又之ヲ搾ルニ付テ、是ダケノ器械ガナクチャナラヌト云フ各、ノ設備ニ付テ蔽フベカラザルモノガアル、各、其順序ニ依リ、設備ニ依リ、經過ニ依リテ、十分ニ安心シテ決メルモノガアルト思ヒマスガ、然ルトコロガ此清涼飲料水ノコトト云フモノハ、單ニ此飲料製造場外ニ移出シタル石數ニ對シテハ製造場内デハ一向査定モ何モセズ製造場ノ門ヲ出テ仕舞フ、斯ウナリマス、ドウモ茲ニ於テ元ガ決マツテナイ、元ノ十石入レタモノヲ一石ト云フモドウモ爭フコトガ出來ナイ、何ダカ此處ニ私ハ甚ダ不安ヲ懷クノデアリマスガ、何カ此製造シタルモノノ既ニ場外ヘ持テ出タル石數ト云フモノハ、凡ソ此位ノモノデアルト云フモノヲ、何カ何處カニ一ツ認メルモノガアルデセウカ、唯、製造所ノ申告ニ任セテ百石ト云ヘバ百石、十石ト云ヘバ十石ト云フコトニナルノデアリマセウカ、ドウモソコガチヨット甚ダ此法文ノミデハ認メガ付キマセヌ、ドウナルノデセウカ、私ハ大體ニ於テドウシテモ、場内デ査定シテ所謂蔵出シデアルト云フヤウナコトニシテ、是ハ隨分元デシカリト抑ヘルモノガアツテ、サウデアレバコソ、其申告ト云フモノガ、百石出ス、十石出スト云フコトガ安心サレル、何カ場外ヘ移出シテ是ダケノモノガアルト云フ安心ヲセラルベキ認メルベキモノガアルデセウカ、之ヲチヨット念ノ爲ニ御聽キシテ置キタイ

○政府委員(黒田英雄君) 御意見ノ通り出シマシタ後ニ於テ課稅ヲ致スノデアリマスカラ、左様ナ御不安ヲ御懷キニナルコトモ

御尤ト思ヒマスガ、是ハ場内査定ヲ致シマスルコトノ困難デアリマスルコト、取引ノ上ニ支障ヲ來シマスルコトハ、前申上デマシタ通りデアリマス、已ムヲ得ズ之デ參テ居ルノデアリマスガ、併シ之ヲ取締リマシムニ於テキマシテ、例ヘバ第一種ノ玉「ラムネ」ノ罐詰ノ如キハ罐ガ相當特殊ノモノガアリマスカラ、サウシテ「ラムネ」製造者ハ先日、阪谷男爵モ言ハレマシタ通り、方ニ製造者モアリマスケレドモ、併シ大抵塚ト云フモノハ塚デ出シマシテ塚デ返シテ來ルト云フ風ニナツテ居ルノデアリマシテ、其塚ノ出入リト云フ風ナモノデモ、大體見當ガ付キマス、又「サイダー」、「シトロン」等ノ大製造者エ付キマシテハ、是ハ帳簿ニ於キマシテ色々ナ材料ノ出入リ等ニ依リテ調ベラレルノデアリマスカラ、材料等ノ方ニ於キマシテモ、炭酸瓦斯ヲ購入ヲ致シマスルモノハ、大體、今日ハ炭酸瓦斯ガ液體ニナツテ居リマスノデ、液體ノ炭酸瓦斯ヲ「ボムベ」ニ詰メマシテ、サウシテ之ヲ購入イタシマシテ、使用シテ居ルノデアリマスカラ、此炭酸瓦斯ヲ拵ヘテ居リマスル所ト、其炭酸瓦斯ヲ購入イタシテ居リマスル所トノ出入リ等ニ依リマシテ、相當ドレダケノ炭酸瓦斯ヲ使タカト云フコトヲ抑ヘマシタルコトモ出來ルダラウト考ヘルノデアリマス、此炭酸瓦斯モ液體炭酸瓦斯ヲ使ヒマセヌモノニ付キマシテ、少サナ所デハ液體炭酸瓦斯デ無イ所モアリマスガ、是ハ石粉硫酸ヲ入レルト云フ風ナコトヲ拵ヘルノデアリマス、是モ其使用ノ原料ト云フモノニ依リマシテ、大體ドレ位ノモノガ出來ルカト云フコトガ推算ガ出來ルコトニ相成テ居ルノデアリマス、技術上ニ於キマシテ推算ガ出來ルコトニナツテ居リマスカラ、ソレ等ノ原料ノ購入ハ、大體、此石粉硫酸ナド

ヲ用キテ居リマスモノハ玉「ラムネ」デアリマス、ソレ等ニハ玉「ラムネ」ノ塚ノ方、ソレカラ石粉硫酸ノ材料ノ方カラ見マスルト云フト、大體ドレ位ノモノヲ拵ヘルノデアルト云フコトノ推算モ略、出來ヤウカト云フ風ニ考ヘマシテ、先程モ左右田サン御質問ガアリマシタヤウニ、多少サウ云フ點ニ付キマシテ取引ヲ致シテ居ル、購入ヲ致シテ居ル結果ト致シマシテ取締方ニ於キマシテ周到ナ規定ヲ設ケマシテ、サウ云フ方面カラシテ出入ノ帳簿ヲ調ベル、或ハサウ云フ先モ調ベテ、サウシテ取締ノ安全ヲ期シタイト云フ考ヲ有シテ居リマス、御心配ノ點ハ大體サウ云フモノニ依リマシテ抑ヘルコトガ出來ルデアラウト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○委員長(子爵前田利定君) ソレデハ御質問モ殘テ居リマセウケレドモ、又次ノ機會ニ御願ヒシマスコトニ致シマシテ、地方稅ニ關スル法律案並ニソレニ關聯イタシテ居リマス明治四十一年法律第三十七號中改正法律案、兩案ニ付キマシテ内務省政府委員ヨリ其内容ノ説明ヲ求メマス

○政府委員(潮惠之輔君) 此際、私カラ地方稅ニ關係イタシマスル兩案ノ内容ニ付キマシテ、本會議デ内務大臣カラ御説明ガゴザイマシタ點ヲ少シ數行ヲ致シマシテ申上ゲマシテ、御審議ノ御參考ニ供シタイト存ズルノデアリマス、地方稅關係ノ法案ハ御覽ノ通り、明治四十一年法律第三十七號、所謂地方稅制限法ノ改正案ト、今一ツハ全ク今回新タニ設ケマスル地方稅ニ關スル法律案ヲ言フノデアリマス、ソレデ便宜上、地方稅制限法ニ關スル改正法律案ノ内容ヲ御聽キニ達シタイト存ジマス、地方稅制限法ノ改正ハ數點ゴザイマスガ、第一ニハ地租附加稅率ノ改正デゴザイマス、地租附加

稅率改正ノ主モナル理由ニ付キマシテハ、既ニ本會議ニ於キマシテ、大臣カラ申上デテ居リマスル通り、今回ノ國稅地租ノ改正ガ田畑ノミ關係ヲ致シテ居リマスルノデ、田畑地租ノ減率ヲ目的トシタノデゴザイマスルノデ、從テ附加稅ノ減收モ、田畑ノ地租附加稅カラ生ズルコトニナリマスルノデ、ソコデ補填イタシマスル爲ニハ、同ジク田畑ノ地租附加稅率ノミノ改正ニ依ルコトガ正シイト存ジマシテ、左様ニ改案イタス積リデアリマス、其他ノ土地ノ地租附加稅ニハ影響ヲ及ボサナイト云フコトニ致シマス、右申上デマスルヤウナ理由ニ依リマシテ、田畑ノ地租附加稅ニ於キマシテ、府縣ノ減收額ハ八百三十九萬六千餘圓、市町村ノ減收額ハ六百三十九萬餘圓ト云フコトニ相成リマス、之ヲ田畑ノ地租附加稅率ノ引上ニ依ッテ補填イタサウトシマスルカラ、府縣ハ現行制限率ノ本稅ノ百分ノ八十三ノ外ニ、百分ノ二十四ヲ引上ゲルコトヲ必要ト致シマス、市町村ハ現行制限率ノ本稅百分ノ六十六ノ外ニ、百分ノ十九ノ引上ヲ必要ト致シマス、ソレニ依リマシテ府縣ハ合計百分ノ百七、市町村ハ合計百分ノ八十五ノ率ト相成リマス、斯ノ如ク致シマシテ現行法ニ於キマシテハ、宅地以外ノ地租附加稅率ハ田畑モ、其他ノ土地モ、同一率トナッテ居ルノデアリマス、之ヲ改メマシテ、田畑ノミガ唯今申上デマスル計算ニ依リマシテ率ヲ定メテ、其他ハ現行法ノ通りニ據置クコトニ致シマシテ、第二ハ營業稅、即チ將來ノ營業收益稅ノ附加稅率ノ改正デアリマス、此附加稅率ノ引上ハ地租附加稅引上ト同様ノ理由デゴザイマシテ、本稅ノ課稅標準及稅率變更等ニ依リマシテ、府縣ノ附加稅減收額ガ八十八萬八千圓、市町村ノ於テ百二十萬二千圓デアリマスカラ、之ヲ補

填スルトシマスレバ、府縣ハ現行制限率本稅百分ノ四十一ノ外ニ百分ノ二ノ引上ヲ必要ト致シマス、又市町村ハ現行制限率ノ百分ノ六十一ノ外ニ、百分ノ二「コムマ」零九ノ引上ヲ要スル、之ヲ計算上、府縣ハ合計百分ノ四十三ト致シテ、市町村ハ合計百分ノ六十三ノ率ト致シマシテ、第三ハ所得稅附加稅ニ關スル改正デアリマスガ、府縣稅戶數割ヲ今回廢止イタサウト存ジマスル爲ニ、府縣ニハ之ニ相當スル財源ヲ必要ト致シマシテ、爾カ致シマシテ、戶數割ハ主トシテ所得ニ依ッテ算定シタ、資力ヲ標準ニ致シテ賦課ヲシテゴザイマスカラ、是ガ廢止後ノ府縣稅ノ體系ヲ考ヘテ見マシテモ、純然タル人稅ハ所得稅附加稅ノミニナッテ仕舞ヒマス、而モ府縣ノ今日ノ所得稅附加稅ノ率ト云フモノハ三「コムマ」ノ六ト云フ頗ル低キニ居リマスノデ、將來府縣稅トシテ適當ナル人稅ヲ求メ、府縣稅ノ體系ヲ整ヘマシタカ適當デアラウト存ジマス、又他面ニ、市町村ニ於キマシテハ戶數割ノ稅額ハ寧ロ多キニ過グルノ感ガアリマシテ、同ジク人稅デアリマス所得稅附加稅ヲ更ニ徵收イタスト云フコトハ、市町村ノ租稅ノ體系ノ上カラハ、却テ人稅ニ偏スルノ嫌ガアル、然ルニ府縣ニ於キマシテハ戶數割廢止ノ財源トシ、且ツ租稅體系ヲ整理スル爲ニ、所得稅附加稅ノ引上ヲスルガ宜シイト考ヘマシタカ爲ニ、其所得稅附加稅ノ引上ヲ急激ニ引上ゲルト云フコトノ弊ヲ避ケマスルガ爲ニ、矢張り市町村ノ所得稅附加稅ハ原則トシテ之ヲ府縣ニ委讓シテ實行スルコトガ適當ト存ジマス、爾カ致シマシテ、府縣ノ所得稅附加稅ノ增率ト一面ニハ家屋稅ノ創設ニ依リマシテ、戶數割廢止ニ依リマスル所ノ歲入ノ缺陷ノ補填ヲ爲シマスカラ、附

加稅率ヲドノ程度ニ致スベキカト云フコトハ、家屋稅ヲ幾何徵收スベキカト云フコトト相關聯イタシテ、兩方互ニ相俟テ決定セネバナラヌト存ジマス、家屋稅ヲ、地方稅ニ關スル法律案ニ於キマシテ、御說明申上デヤウト存ジマスルガ、凡ソ府縣ニ於キマシテ三千餘萬圓ヲ徵收スルコト、致シマス、之ニ依リマシテ戶數割ノ廢止ノ爲ニ生ズル歲入ノ缺陷ヲ補填イタシ、尙ホ其殘額デアリマスル各府縣ノ不足額二千二百餘萬圓ヲ所得稅附加稅ニ求メルコト、致シマスレバ、各府縣ニ於キマスル所得稅額ノ狀況ガ區々デアリマス爲ニ、結局、全國ノ平均ト致シマシテハ、現行ノ府縣ノ所得稅附加稅ノ本稅百分ノ三「コムマ」六、市町村カラ賦課イタシマシタ所得稅附加稅率ノ百分ノ十四ト合計イタシマシタ、百分ノ十七「コムマ」六ト云フモノニ加ヘマスルノニ、更ニ本稅百分ノ六「コムマ」四ヲ增率イタシマシテ、總テ合計イタシマシテ本稅百分ノ二十四ト云フコトニ致スノデアリマス、或ハ此增率ハ稍、高キニ過グルデハナイカト云フ疑ゴザイマセウト思ヒマスケレドモ、地租、營業稅等ノ附加稅率ニ比較シマシテモ、必シモ是ガ高キニ過グルモノトハ申サレマセスト存ジマスル、ノミナラズ戶數割廢止ト申スガ如キ極メテ重要ナル整理ヲ行ヒマスルガ爲ニハ、此程度ノ所得稅附加稅ノ引上ハ實ハ已ムヲ得ザルコトデアラウト存ジマス、且ツ性質カラ考ヘマシテモ、戶數割ガ既ニ所得稅課稅標準ノ算定ニ關シマシテ重モナル課率ト致シテ居リマスカラ、其戶數割ヲ廢止スルガ爲ニハ、所得稅附加稅ト云フ性質ノ相似タル稅ヲ增率スルノデアリマスカラ、多クノ人ニ對シマシテハ、此變革ノ爲ニ負擔ニ大ナル變化ヲ生ズルコトハアルマイト存ジマス、以上申上デマシタ如

ク、市町村ノ所得稅附加稅ハ原則トシテ之ヲ府縣ニ委讓スルコト、致シマシタガ、戶數割ヲ施行イタシ難イ市町村ガ將來ト雖モアリマスル、是等ノ市町村ニ於キマシテハ、其租稅ノ體系カラ考ヘマシテモ、全然人稅ヲ失ッテ仕舞ヒマス、又財政ノ經理ノ上カラ申シマシテモ、伸張性ノアリマスル稅種ヲ失フコトニナリマスカラ、種々此間ニ都合ヲ生ズルト考ヘマスカラ、是等ノ特別ノ市町村ニ於キマシテハ、例外的ニ一々內務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケマシテ、所得稅ノ百分ノ七マデノ所得稅附加稅ヲ賦課シ得ルノ制度ヲ認メタイト存ジマス、此許サレマシタ所得稅附加稅率ハ現行市町村ノ所得稅附加稅率ノ丁度半分デアリマス、以上ハ地方稅ニ關スル法律案ノ政府ノ原案ニ付キマシテ申上デタノデアリマスガ、之ニ對シマシテ衆議院ニ於テ二三ノ修正ヲ加ヘラレマシタ、第一、第一條中ノ改正規定ヲ削除スルト云フコトデアリマスガ、是ハ地租一分減ヲ行ハナイト致シマスレバ、之ニ伴テ當然來ルベキモノデアリマシテ、政府ハ此修正案ニ依リマシテモ差支ハナカラウト存ジマス、第二ハ、第二條中ノ改正規程中ノ修正デアリマスガ、營業收益稅中ノ第十條ニ關シテ、法人ガ各事業年度ニ納付シマシタ地租額又ハ資本利子稅額ハ當該事業年度ノ營業收益稅額カラ之ヲ控除スル結果ト致シマシテ、法人ハ其部分ノ營業收益稅附加稅ヲ免レルコトニナリマス、政府ノ當初考ヘマシタノハ、是等ノ法人ニ對シマシテハ或ル種ノ特別稅ヲ課シテ、負擔ノ公正ヲ維持イタシタイト存ジテ居リマシタガ、衆議院ノ方デハ特別稅ノ課稅ヨリモ、資本利子稅額ノ控除ヲナサナイモノトシテ營業收益稅ヲ見ル方ガ宜シイ、仍テ之ニ對シテ附加稅ヲ課スル制度ガ適當デアルト云フコト

デ修正ガ加ヘラレマシタ、是ガ爲ニ、此修正ニ依リマスレバ幾分附加税ガ増額ニナリマスノデ、市町村ノ附加税率ヲ百分ノ一程低ク致サナケレバナラヌノデアリマス、ソレカラ第三八第三條中ノ改正規定ニ一項ガ追加サレテ居リマスガ、是モ營業收益税ニ關スルト同様ノ趣旨デアリマシテ、所得税法ノ第二十一條ニ於テ法人ガ各事業年度ニ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税額ハ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得税額ヨリ之ヲ控除スル結果ト致シマシテ、法人ハ其部分ノ所得税額ノ負擔ヲ免ルト云フコトニナリマス、仍テ此場合ニ於テモ第二種ノ所得税額ノ控除ヲ爲サザルモノヲ以テ第一種ノ所得税額ト看做シテ附加税ヲ課セシムルト云フコトニ相成リマシタ、第四ハ右申上デマシタル修正ノ結果ニ伴ヒ、附則ニ於テ必要ナル修正ヲ加ヘラレマシタノデアリマス、引續キマシテ地方税ニ關スル法律案ノ大體ニ付テ申上デタイト思ヒマス、御水知ノ通り、現在ノ府縣稅中國稅附加税ニ關シマシテハ明治四十一年法律第三十七號地方稅制限ニ關スル件及其他ノ法律ガアリマス、又國稅附加税以外ノ稅ニ付キマシテハ明治十三年第十六號布告地方稅規則、其他ノ法令ガ存シテ居リマス、而シテ府縣制第百三條ニ依リマスレバ府縣稅ニ關シマシテハ法律ノ規定アルモノヲ除ク外、勅令ヲ以テ之ヲ定メ得ルト云フ規定ガゴザイマス、想フニ地方ノ自治團體ノ稅ノコトデゴザイマスノデ、大體ノ所ハ之ヲ成ルベク地方ノ自由ニ任セマスル方ガ自治發達上、適當ト認メマシテ、斯様ナルコトニ決マツテ居ルコトト存ジマス、仍テ唯、今日ノ法律論カラ申シマスレバ、府縣制ニ依リマスレバ原則トシテ勅令デ規定シ得ルト存ジマス、又市町村稅ニ

付キマシテモ、市町村制ノ規定ニ依リマシテ同様ノ勅令ヲ以テ規定シ得ルコトト存ジマス、併シ何分ニモ國民ノ負擔ニ大關係ノアル事項デゴザイマスカラ、其中ノ重要ナル事項ニ付テハ矢張り法律ト致シマシテ基本ノ規定ヲ設ケルコトガ極メテ穩當ト存ジマスルノデ、其趣旨ヲ以テマシテ本法ヲ今回制定イタシマシテ國稅附加税以外ノ府縣稅、市町村稅ニ關スル一ツノ根本法ト致シタイト存ジマス、仍テ先ヅ其第一條ニ於テハ北海道府縣ガ特別地稅、家屋稅、營業稅及雜種稅ナル稅ヲ賦課スル場合ニハ其内容ハ本法ノ規定ニ依ラナケレバナラヌト云フコトヲ明カニシタノデアリマス、第一ハ特別地稅及其附加税デゴザイマスガ、特別地稅及附加税ニ付キマシテハ、第二條乃至第八條ニ其規定ヲ設ケマシタ、特別地稅及其附加税ヲ設定イタシマシタル理由ニ付キマシテハ內務大臣ヨリ本會議大要御述ベニナツテ居リマスルガ、其趣旨ニ基キマシテ此稅ハ附加税ニ代ハルベキモノトシテ取扱フノガ相當ト存ジマス、デ其賦課ニ當リマシテハ課稅標準ハ地租ガ地價ヲ課稅標準ト致シテ居リマスル限リ、同様ニ矢張り土地臺帳ニ掲ゲテアリマスル地價ト云フコトニ致シマシテ、納稅義務者モ亦地租ヲ納ムル者ト同一ノ範圍ト致シマシテ、全然地租附加税ト同一ノ扱ヲ致サウト存ズルノデアリマス、斯ノ如ク特別地稅ハ其土地ニ對スル地租附加税ニ代ハルベキモノデゴザイマスカラ、其賦課ノ制限率ヲ決メマスルノニモ、地方稅制限ニ關スル規定ノ第一條ニ決メテ居リマスル地租附加税ノ制限率ニ準ジテ算定スルコトガ當然ト存ジマス、而シテ之ヲ地價ニ對スル課率ニ換算イタシテ決定イタシマスルガ、サウ致シマスルト府縣ノ特別地稅ノ率ハ、地價百分ノ三

「コムマ」七、市町村ハ市町村制ノ規定ニ依リマシテ、特別地稅ニ對シテ附加税ヲ賦課シ得ルノデアリマスガ、是モ特別地稅同様ニ地租附加税ニ代ハルモノトシテ課稅スベキモノデアリマスカラ、矢張り其制限率ハ地方稅制限ニ關スル件ニ於テ、市町村ノ地租附加税ニ付テ定メテ居リマスル負擔ノ限度ヲ超エルコトガ出來ナイト存ジテ居リマス、即チ改正地租附加税率本稅百分ノ八十五ヲ、北海道ノ改正地租率地價百分ノ二箇半ニ乘ジタルモノ、及ビ内地ノ改正地租率地價三箇半ニ乘ジタルモノヲ、本條第一項所定ノ特別地稅ノ制限率タル北海道ノ地價百分ノ二「コムマ」六、府縣ノ地價百分ノ三「コムマ」七ニ比較シマスルト、前者ハ後者ノ百分ノ八十強トナリマスルガ爲ニ、市町村特別地稅ノ附加税ハ、府縣本稅制限率ノ百分ノ八十ヲ以テ制限率ト定メマシタ、其他府縣費ノ分賦ヲ受ケマシタ市町村ニ關スル事柄、竝ニ特別地稅及其附加税ノ制限外課稅等ニ關スル事項ニ付キマシテハ、同ジク地租附加税ト同様ニ取扱フ規定ヲ設ケマシタ、第二ハ家屋稅デゴザイマスルガ、家屋稅創設ノ理由ニ對シテハ、既ニ御聽キニ達シテ居ル通りデゴザイマス、其納稅ハ必ズ家屋ニ依リテ收益ヲ受ケマスル所有者トナルベキコトハ勿論ト存ジマス、サウシテ其課稅標準ニ關シマシテハ、家屋ノ價格或ハ其他種々考慮スベキ標準モゴザイマスルケレドモ、收益稅デアルト云フ性質ニ鑑ミマシテ最モ適當デアルト存ジ、且又將來國稅地租ト扱フ同様ニ致スト云フ必要上、之ヲ賃貸價格トナスコトヲ適當ト認ムルノデアリマス、デ然カ致シマシテ家屋稅ノ課稅標準タル賃貸價格ハ、實際ノ賃貸價格ヲ擇バズシテ、評定賃貸價格ニ依ルコトガ最モ負擔ノ公正ヲ期スル所以ダト思ヒマス、又

此家屋稅ハ新シイ稅ノコトデモゴザイマスルシ、國民ノ負擔ト致シマシテハ普遍的デアリ、且ツ重要ナルモノデアリマスルカラ、特に地方ニ家屋稅調査委員ト云フモノヲ設ケマシテ、其調査ト俟テ實施上ノ圓滑ヲ期シタイト存ジマス、ソレカラ家屋稅及其附加税ノ賦課率、其他本稅ノ賦課ニ關スル制限ハ、家屋稅ニ關スル重要ナル事項デアリマスルケレドモ、今直チニ一定ノ課率ヲ定メマスルコトハ極メテ困難デアリマスルト又之ヲ全然府縣ノ自由ニ任セマス、場合ニ依リマシテハ過重ノ負擔トナル所モゴザイマスルノデ、之ヲ嚴重ニ監督イタシ、土地等ニ對スル課稅其他ノ諸稅ト均衡ヲモ考ヘナケレバナリマセヌノデ、勅令ヲ以テ其規定ヲ：其制限ヲ定メルコトト致シマシタ、然ラバ如何ナル程度ニ於テ家屋稅ヲ賦課イタスカト云フコトニナリマスレバ、是ハ戶數割ヲ廢止スル爲ニ缺陷ガ生ジマスルガ、其補填ノ所要額、又其補填ノタメ所得稅附加税ヲ賦課スル程度等、是等ノ各種ノ事情ヲ考慮イタシマシテ、大體ハ三千万圓ヲ賦課スル見込デゴザイマス、又家屋稅ノ附加ニ付キマシテハ、本稅ノ百分ノ八十位ニ致シタイト存ジマス、其徵收見込額ハ二千四百四十二萬圓ト云フコトニナリマス、併シ現在ノ家屋稅施行地ハ、將來モ戶數割ヲ實行イタシ難イノデアリマシテ、本法ヲ施行イタシマシタ後ニモ其事情ニハ變リナイト存ジマスカラ、矢張り戶數割ニ致シマシテ、家屋稅附加税ヲ徵收スルコトヲ認メナケレバナリマセヌ、是等ノ市町村ニ於テハ戶數割ニ代ヘマシテ家屋稅附加税ヲ徵收スルノデアリマスガ、其額ハドウナルカト申上デマス、當該市町村ガ地方稅制限法ニ依リ許可ヲ得テ、所得稅附加税ヲ課スルカ課サナイカニ依ツテ異、テ來ル

ノデアリマス、併シ大體ハ所得稅附加稅ヲ
先刻申上デマシタ現在ノ半分マデハ取ルデ
アラウト云フ豫定ノ下ニ考ヘマシレバ、家屋
稅ノ附加稅ハ結局二千七十四萬圓ハ徵收イ
タスコトニナリマスノデ、結局家屋稅附加
稅總額ハ四千五百十三萬餘圓トナル見込デ
アリマス、家屋ノ賃貸價格ノ算定及ビ家屋
稅調査委員ノ組織ニ關シマシテハ、事カ細
目ニ互リマスト存ジマスノデ、一々法律ヲ
以テ規定イタシマセズニ、勅令ヲ以テ相當
ノ手續ヲ執ルコトニ致シマシタ、第三ハ營
業稅デアリマス、府縣ノ營業稅ヲ賦課スル
營業者ハ、國稅營業者トノ關係ニ於キマシ
テ二様ゴザイマス、即チ其一ツハ國稅タル
營業收益稅ヲ賦課スベキ業態ノ營業、例ヘ
バ物品販賣業、又ハ製造業ノ如キ營業デア
リマシテ、純益四百圓以下デアリマスモ
ノ、又重要物產製造業者トシマシテ三年間
國稅ノ賦課ヲ免ゼラレマスルガ爲ニ、營業
收益稅ノ賦課ヲ受ケナイ營業者ガアリマス、
其ノ二ハ營業ノ業態、ガ全ク營業收益稅ノ
賦課ヲ受ケナイ種類ニ屬スルモノデアリマ
ス、例ヘバ藝妓置屋業、兩替業ノ如キモノ
デアリマス、斯ノ如ク營業稅ヲ賦課イタシ
マスル營業ノ種類ニハ二様ゴザイマスガ
ラ、本法ノ趣旨ト致シマシテハ營業稅ヲ賦
課スベキ營業ノ種類ニハ、先ツ營業收益稅
法第二條ニ掲グルモノヲ採用イタシ、其以
外ノモノハ從來、府縣稅營業稅中ニ存シテ
適當ノ種類、又ハ雜種稅中營業稅ニ移ス方
ガ適當ト認ムル種類ヲ選ビマシテ勅令デ之
ヲ決メルコトト致シマシタ、例ヘテ見マス
レバ湯屋業、兩替業、理髮業、寄席業ノ如
キモノデアリマス、斯クシテ從來各府縣ニ
於テ營業ノ種類ガ極メテ多岐ニ互リマシ
テ、各種ノ營業者間ノ負擔ノ公正ガ得ラレ
テ居ルカドウカ判斷ニ苦ム場合モアリマシ

タガ、之ヲ成ベク統一スルコトニ相成リマ
ス、ノミナラズ職工デゴザイマスツカ、露
店行商等、是等ノ細カイモノニ課稅イタシ
テ居リマシタノヲ、今回ハ營業稅ヲ賦課セ
ザルコトニシ、廢止イタサウト存ジマス、
依テ相當負擔ノ能力アル營業ニ限ッテ、
府縣營業稅ヲ賦課イタシタイト考ヘテ居リマ
ス、而シテ國稅營業稅ヲ廢止シマシテ國稅營
業收益稅トナリ、其免稅點ヲ變更スルコト云フ
コトニナリマシタ結果、府縣ノ國稅營業稅附加
稅ニ於キマシテ百二十三萬ノ減收ヲ見ルノ
デゴザイマス、ガ、一面ニハ是等ノモノガ府
縣稅營業者ニ落チテ來ルト云フ關係モゴザ
イマスノデ、此點ニ於キマシテハ二百三十
一萬餘圓ノ增收ヲ見ル計算デアリマス、又
在來ノ府縣稅營業稅ノ課稅課目ヲ整理イタ
シマシタノデ、百二十一萬餘圓ノ減收ニ相
成リマス、更ニ國稅營業者ノ負擔ガ大正十
五年度以降凡ソ百分ノ八ヲ輕減セラルルノ
デアリマスカラ、府縣稅營業者モ同様ニ之
ヲ輕減スルコト云フコトニナリマシタ爲ニ、
減收ガ七十二萬餘圓トナル見込デゴザイマ
ス、尙ホ市町村ニ於テモ同様ニ營業稅附加
稅ニ増減ガ出來ル、即チ國稅營業稅附加稅
ニ於テ百四十三萬圓ノ減收ニナリマスガ、
國稅營業稅附加稅即チ將來ノ營業收益稅ノ
免稅點ヲ變更シタル爲ニ、府縣稅營業者ガ
增加イタシマシテ、營業稅附加稅ガ百八十
五萬餘圓增收ガアリマス、ソレト同時ニ
府縣稅營業稅ノ課目整理ニ依リマシテ附加
稅減ガ百二十二萬餘圓、並ニ府縣稅營業者ノ
負擔ヲ國稅營業者ヨリモ輕カラシムル爲ニ
營業稅附加稅ヲ本稅百分ノ八十ト致シマシ
テ、依テ減收ガ百七十五萬餘圓ヲ減收イタ
シマス、營業稅ノ課稅標準並ニ其營業稅及ビ
其賦課ノ制限ニ付キマシテハ、是亦勅令ニ於
テ適當ニ規定イタシタイト存ジマシテ、勅令

ニ讓ルコトニナリマシタ、第四ハ雜種稅デア
リマス、雜種稅ノ賦課スベキモノノ種類ハ
明治十三年ノ第十七號營業稅、雜種稅ノ種
類及ビ制限ニ於キマシテ、二十七種類ヲ認
メテゴザイマスガ、其外ニ現在內務大藏兩
大臣ノ許可ヲ得マシテ、府縣デ設定イタシ
マシタモノガ七十七種デゴザイマス、然ル
ニ右布告ニ於テ決定メテアリマスルモノ、中
ニハ、料理屋稅、飲食店稅、湯屋稅ノ如キ
申サバ營業稅ノ性質ヲ有スル科目ハ少ク
ナイノデアリマス、又時代ノ變遷ニ應ジマ
シテ取捨イタスモノモアリマスカラ、今回
之ヲ適當ニ改正シテ、其勅令ノ中デ其種目
ヲ規定スルコト、致シマシタ、デ將來ハ明
カニ規定シテナイ種類ニ付キマシテハ、內
務大藏兩大臣ノ嚴重ノ監督ノ下ニ許可ヲ得
マセヌケレバ其種目ノ増加ヲシナイト云フ
コトニ致シタイト存ジマス、又現ニ雜種稅
ヲ課シテ居リマス中デ、法人ノ建物稅、倉
庫稅ノ如キ家屋稅ト重複ノ課稅トナルガ如
キ虞レノアリマスモノハ此際之ヲ廢止シタ
シ、又仲仕稅、小貸金業者ニ對スル稅ノ如
キ謂ハバ反社會政策的ノ科目ニ付キマシテ
ハ此際之ヲ整理セシムルコトニ致シマシ
タ、以上ノ整理ノ結果、雜種稅ノ減收ガ四
百六十五萬餘圓ノ見込デアリマシテ、之ニ
對シテ市町村ノ附加稅ノ減收ハ四百十三萬
餘圓ニナル見込デゴザイマス、雜種稅ノ課
稅標準、並ニ雜種稅及ビ其附加稅ノ賦課制
限ニ付キマシテハ、是亦勅令ヲ以テ相當ニ
規定ヲ致シタイト存ジマス、第五ト致シマ
シテ最後ニ戶數割ノ事ヲ申上デマスルガ、
戶數割ヲ府縣稅トシテハ、此度廢止イタシマ
シタ、又市町村稅トシテ之ヲ創設イタスト
云フ意味ニ付キマシテハ、是亦內務大臣ヨ
リ本會議ニ於キマシテ申上デタ通りデ、而
シテ戶數割ヲ市町村稅ト致シマスルガ、其納

稅義務者ハ、府縣稅ノ場合ト異ルベキ理由
モゴザイマセヌカラ、矢張り是ガ原則トシ
テ此一戶ヲ構フル者ニ之ヲ課シマス、一戶
ヲ構ヘナクテモ獨立ノ生計ヲ營ム者ニハ又
課シ得ルコトニ致シマシタ、依ッテ一戶ヲ
構フル者、然ラザル者トノ間ニ相當負擔ノ
均衡ヲ失シナイヤウニ致シタイト存ジマ
ス、唯戶數割ノ課稅標準デアリマスガ、是
ハ稅ノ性質ニ鑑ミマシテ、現在ノ附加稅戶
數割ト同様ニ納稅義務者ノ資力ヲ標準ト致
スコトニシタイト存ジマス、唯資力ヲ算定
スルニ當リマシテ其算定ノ標準ノ中ニ住家
坪數ガ今日這入ッテ居リマス、之ヲ將來存續
イタシマスルコト、自己ノ所有ノ家屋等ニ居
住シテ居ル者ガ多數ヲ占メテ居リマスル農
村ノ如キハ、結局家屋稅ト戶數割ト住家坪
數ニ當ル部分トガ重複負擔トナル虞レモア
リマスルノデ、此點タケハ變更イタシマシ
テ、現行ノ資力算定標準カラ住家坪數ハ控
除イタシタイト思ヒマス、依テ納稅義務者
ノ所得額及資產ノ狀況ノミヲ以テ資力ヲ算
定スルコトニ致シマシタ、其他戶數割ノ賦
課ノ制限、納稅義務者ノ資產狀況等ニ依リ
マシテ、資力ヲ算定シテ賦課スル額、及ビ
其以外ニ於キマシテモ納稅義務者ノ資力算
定ニ關シマシテハ種々細則等ガ必要ト存ジ
マスルノデ、是ハ勅令ニ依リマシテ相當ノ
定メヲ致シタイト存ジマス、以上兩案ニ付
キマシテ大體ノ要領ヲ申上デマシタ、他ハ
御尋ネニ依リマシテ御答ヲ致スコトニ致シ
マス
○男爵藤村義朗君 只今御說明ニ與リマシ
タ内、色々此數字ニ關スルコトハ、頂戴シ
テアリマス地方稅ニ關スル法律案ノ參考書
ノ中ニ殘ラズ出テ居リマスカ
○政府委員(湖惠之輔君) 大體印刷物デ御
目ニ懸ケテアリマス參考書ノ其中ニゴザイ

マス

○西野元君 只今此地方税ノ賦課ニ關スル根本ノ法制ノコトニ付キマシテ、御説明ガアツタノデアリマスガ、先刻御話ノ中ニ現今ハ府縣制又ハ市町村制ノ中ニ勅令ニ依テ地方税ヲ課スルコト云フ規定ガアル、其一部分ヲ法律ノ方ニ移シテ、此地方税ニ關スル法律案ノ第一條ニアリマス通り茲ニ掲ゲタト云フ御話ガアリマシタガ、府縣制並ニ市町村制、ソレカラ地方税ニ關スル法律案ノ規定トノ聯絡調和ト云ヒマスガ、其間ノ關係ハ將來ドウ云フコトニナルノデアリマスガ、即チ是等ノ法制ノ全體ヲ通覽イタシマシテ、將來地方税ニ關スル事柄ハ、此法制ノ上ニ於テ如何ナル形式ニ於テ定メラル、ノデアルカ、或ルモノハ法律ニ依リ、或ルモノハ勅令ニ依リ、或ルモノハ法律又ハ勅令ノ無クテ内務大臣ノ許可ニ依ルコトガ出來ルノデアリマス、甚ダ其邊ノ法制ニ暗イ爲ニ今回ノ御提案ノ結果トシテ、日本ノ地方税ニ關スル法制ト云フモノハ、如何様ニナルノデアリマスガ、例ヘバ國稅ニ付キマシテハ、總テ租稅ト云フモノハ議會ノ協賛ヲ經タル法律ヲ定メマスコトハ申ス迄モナイコトデアリマスガ、ソレニ代ルベキモノトシテ：其國稅ニ代ルベキモノト同ジヤウナ地位ニ立ツモノハドウ云フモノデアリマスガ、全體ヲ包括的ニ大體御説明ヲ煩シタイノデアリマス

○政府委員(潮惠之輔君) 御答ヲ致シタイト思ヒマスガ、法制ノ立前ト致シマシテハ、將來モ矢張り府縣稅、市町村稅ハ其儘存續致スト存ジマスルガ他ニ法律ノ限定ガアリマスレバ別デゴザイマスルガ、矢張り勅令ニ依リマシテ地方税ニ關スル規定ハ設ケ得ルトハ存ジマスルガ併シ其稅種ガ極メテ重要デアリ、或ハ又地方一般ニ普遍的ニ施行

サレルヤウナモノデアリマシタナラバ、現ニ此地方税ニ關スル法律モ左様デアルト存ジマスガ、斯ノ如キモノニ付キマシテハ、將來只法文ノ上デ勅令デ出來得ルト申スノ故ヲ以テ、勅令デノミ之ヲヤルト云フコトハ穩當デナイト思ヒマス、斯ノ如キ種類ノモノニ付キマシテハ、恐ラク將來モ亦法律トシテ御審議ヲ御願スル機會ガゴザイマセウト思ヒマスガ、只此法ガ出來マスルガ爲ニ府縣稅市町村稅ハ生命ヲ失フモノデハナイト解釋イタシテ居リマス

○西野元君 サウ致シマス、此地方税ニ關スル法律案ノ第一條ハ、此法律ノ名稱ト並ビニ條文ノ位置ノ上カラ考ヘマシテ、將來我國ニ於ケル府縣制ノ地方税ニ關スル根本義ヲ定メタヤウニモ見エマスケレドモ、唯今ノ御話ノ如ク既ニ從來行ハレテ居ル所ノ府縣制ト是ト異シタ他ノ法制モ並ビ行ハレルト云フコトニナリマスレバ：若シ此第一條ノ規定ニシテ府縣ガ是等ノ課稅ヲナス爲ニハ、必ズ本法ニ依ラナケレバナラス、本法ニ依テ初メテ之ヲ賦課スルコトガ出來ルノデアアル、本法ニ依ラズシテ之ヲ賦課スルコトハ出來ナイト云フコトニナリマスルト、此外ニハ何等ノ課稅モナイヤウニ見エマスルケレドモ、他ニ勅令ヲ以テ賦課スルモノガアリマス云フト、本法ニ依テ、賦課スルヲ得ト云フ規定ノ精神ガドウ云フ風ニ解セラレマスルカ、特別地稅トカ家屋稅トカ云フヤウナ名稱ニ依ルモノハ、必シモ名稱バカリデハイカス、サウ云フ名稱ニ依リ、サウ云フ實體ヲ持テ居ルモノハ、本法ニ依テ初メテ賦課スベキコトヲ得ルノデアツテ、比處ニ掲ゲタ稅目ニ付キマシテハ、府縣制ノ規定ニ依テ、勅令ヲ以テ課稅ガ出來ナイト云フコトニモ解釋セラレマスカラ、其關係ガ甚ダ不明ニ考ヘマスノデ、

ドウ云フ風ニ考ヘタラ宜シイカ、モウ一應御答ヲ願ヒタイ

○府政委員(潮惠之輔君) 大體今前半ニ於テ御述ベニナリマシタヤウニ思ヒマスガ、地方税ニ關シマスル資源ノ規定ト致シマシテハ、矢張り地方制度ノ根本ニアル、併ナガラ此地方税ニ關スル法律ノ第一條トノ關係ハドウナルカト云フコトデアリマス、府縣ガ此名稱ハ免ニ角内容ト致シマシテ、本法ニ定メテ居リマスヤウニ、或ハ特別地稅、家屋稅、營業稅、雜種稅ノ如キ此種ノ稅ヲ賦課イタシマスルニ付キマシテハ、本法ニ依ラザルヲ得ナイ、其稅ヲ課スルニ付テハ本法ニ依ルベシト云フコトニ、此法律ヲ以テ定メマスルガ爲ニ、府縣制ノ方モ自カラ法律ノ規定ハ：コナラニ有リマス爲ニ制限ハ受ケマスケレドモ、此資源ハ矢張り府縣制ニ於テ存在シテ居ルモノト存ジテ居リマス

○西野元君 唯今御話ノ如クデアリマス、府縣制ガアルニ拘ラズ、將來此法律ノ精神カラ申シマス、苟クモ特別地稅、家屋稅、營業稅、及雜種稅ヲ賦課スル爲ニハ必ズ本法ニ依ルベキモノデアツテ、他ノ勅令ヲ以テ本法ト牴觸シタモノハ無論出來マスモ、是ガ補足的ノモノヲヤルト云フコトハ出來ナイヤウニ思ヒマスルケレドモ、茲ニ特別地稅トカ家屋稅トカ營業稅トカ云フモノハ、名稱上カラ極メテ判然シテ居リマスガ、雜種稅ニ至ッテハ、本法ニ依テ初メテ雜種稅ヲ賦課スルコトヲ得ト申シマシテモ、其雜種稅ナルモノ、何タルヤ内容ガ分ラヌノデアリマシテ、恐ラクハ此雜種稅モ此勅令ノ規定ニ讓ルコトニナッテ居ルノト考ヘルカラシテ、畢竟スルニ、此法律ノ效果ハ府縣ガ特別地稅、家屋稅、營業稅ヲ課スル爲ニハ必ズ本法ニ依ルベキモノデアルト云フ結果ニ結局陷リマスノデアリマセウカ

○政府委員(潮惠之輔君) 御示シノ通り雜種稅ナル言葉ヲ第一條ニ使ッテ居リマスガ、府縣ガ將來雜種稅ヲ賦課スル場合ニ固ヨリ本法ニ依ラナケレバナラス、唯、仰セノ如ク第一條ニ雜種稅トアリマス、而シテ其内容ハ分ラヌヤウニ仰セデゴザイマスガ、是ハ矢張り第十九條デ雜種稅ヲ賦課シ得ベキ：即チ本法ニ依ッテ雜種稅ヲ賦課シ得ベキモノヲ勅令デ定メマス、又例外トシテハ内藏兩大臣ノ許可ヲ受クルモノニ限ルト斯ウ書イデアリマスカラ、苟モ府縣デ雜種稅ノ賦課ヲ致シマスニハ本法ニ依ラナケレバ出來マセヌコト、ナリマス

○西野元君 サウ致シマス、尙ホ一點念ノ爲ニ伺ッテ置キマスガ、第十九條ノ規定ハ、其雜種稅ヲ起シマス場合ニハ矢張り此本法ニ依ッテ、十九條以下ノ本法ノ規定ニ依テ行クノデアツテ府縣制ノ規定ニ依ル勅令デ行クコトハナイト云フ解釋ヲ致シテ宜シイノデアリマスガ、ドナラモ勅令デアリマスケレドモ、矢張り本法ニ基ク勅令ト言ヒマスガ、其根據法ハ本法第一條ニ基クモノト考ヘテ宜シイノデアリマスガ

○政府委員(潮惠之輔君) 雜種稅ノ内容ト致シマシテハ固ヨリ十九條以下ニ依ラナケレバナラスト思ヒマスガ、併シ府縣制ハ先程申シマスヤウニ或ハ四百條以下數條ニ互リマシテ各稅ヲ通ジマシテ府縣稅ノ原則ガ極メテアリマスノデ、或ハ住所トカ或ハ滞在トカ行為トカ特定物件トカ種々ナモノガアリマシテ、此モノ等ガ納稅スベキ、斯ウ云フモノハ納稅客體ニナルト云フコトガ書イデアリマスルカラ、其規定ハ矢張り府縣制トシテ働イテ參リマス、併シ其規定ハ働キマスケレドモ、既ニ本法ニ於キマシテ雜

種稅ノ内容ヲ第十九條以下ニ極メテアリマ
スル以上ハ、之ニ違反シタル勅令ノ如キモ
ノハ出セナイコトト私ハ存ジマス

○西野元君 尙ホ一點伺ヒタイノハ本法ノ
第一條ニ北海道府縣ノコトガ書イテアルノ
デアリマスガ、其他ノ市町村等ノ公共團體
ニ付テノ規定ハ第一條ノ如キ形ニ於テ本法
ノ中ニ現ハレテ居ラヌノデアリマスガ、是
ハ何カ特別ノ御趣意ガアッタノデアリマセ
ウカ、即チ地方稅ニ關スル根本ノ法規トシ
テ府縣ノ課スベキモノハ本法ニ依ルベキモ
ノデアルト云フ、第一條ノ原則ト同ジ意味
ニ於キマシテ市町村ニ課スル地方稅ナルモ
ノモ亦本法ニ準據スベキモノナリト云フ原
則ヲ此法規ノ中ニ掲ゲテ置クヤウナ必要ハ
御認メニナラナカッタノデアリマセウカ、
法制ノ體裁トシテチヨット其點ヲ伺ッテ置キ
タイト思ヒマス

○政府委員(潮惠之輔君) 御答申上ダマス
ガ、此地方稅ニ關スル法律ヲ御覽下サイマ
スト、如何ニモ仰セノ通り府縣稅ノコトダ
ケ書イテアッテ、市町村稅ニ關スルコトハ
書イテナイト云フ仰セデゴザイマスガ、此
點ハ私共ハ斯様ニ考ヘマス、市町村稅ニ付
キマシテハ例ヘバ市制第百十七條ニ於キマ
シテ、町村制ニモ類似ノ規定ガアリマスル
ガ、市稅トシテ賦課スルモノハ左ノ如シ「一
國稅府縣稅ノ附加稅」「二特別稅」云々ト書
イテアリマス、既ニ府縣稅ヲ根本ニ於テ認
メマスレバ、府縣稅ニ對スル家屋稅其他ノ
附加稅ニ付テハ市制百十七條ガ働イテ居リ
マス云フ考デアリマス、特ニ此法律ノ中
ニ載セマスル必要ハナイト解シマス

○男爵藤村義朗君 私ハ頭カラ今度ノ國稅
ノ整理モ地方稅ノ整理モ甚ダ姑息ノモノデ
アルト考ヘテ居ルノデアリマス、地方ノ稅
制ニ付テハ殆ド組織ノ體系ト云フヤウナ

モノガナク、唯國稅ノ附加稅デ以テ之ヲ主
ナ財源トシテ、サウシテ之ニ色々ノ營業稅
トカ雜稅トカ云フモノヲ持ッテ來テ、サウ
シテ賦課シテ居ル、頗ル亂雜ナモノノヤウ
ニ私ハ考ヘテ居リマス、而カモ近年地方稅
ノ急激ナ膨脹ハ遙カニ國稅ノ膨脹ヨリハ膨
脹率ヲ超過シテ、サウシテ國民ハ殆ド其負
擔ニ堪切レヌト云フヤウナ實狀ニアル、隨
テ此地方稅制ノ整理ヲシテ負擔ノ公正及ビ
負擔ノ輕減ヲ圖ルト云フコトハ、國稅ノ整
理ヨリハ一層其必要ノ程度ガ緊切ナルモノ
ガアルノデハナイカト云フヤウニ思ハレル
ノデアリマス、此稅制整理、地方稅制整理
ニ付テ審議シマス前ニ、地方ノ今日ノ財政
即チ府縣及ビ市町村、此兩者ニ互テノ財
政ノ今日ノ狀況ハ如何デアルカ、サウシテ
政府ガ此地方財政ノ整理ト云フコトモ既ニ
御始メニナッテ居ラレルコトデアルカ、今日
マデニ如何ナル方面ニ於テドノ位ニドウ云
フ整理ヲサレタカ、先ヅ以テ伺ッテ見タイ
ト思ヒマス

○政府委員(潮惠之輔君) 藤村男爵御指摘
ノ通り、地方財政ガ近年非常ナ膨脹ヲ致シ
マシテ、隨テ地方民ノ負擔ノ容易ナラザル
モノガアルト云フコトハ政府ト致シマシテ
モ相當承知イタシテ居リマスルガ、是ハ數
年前、殊ニ戰後此方面ニ於ケル緊縮整理ト
云フコトノ必要ヲ痛感イタシマシテ、現内
閣ニ限リマセズ歷代ノ内閣ニ於カレマシテ
極力地方財政ノ整理緊縮ト云フコトヲ御唱
導ニナリ、又我々モ皆ヲ受ケマシテ其方針
ノ徹底ニ努力ヲ致シテ居ルノデアリマス、
固ヨリ其方針ニ依リマシテ從來動モスレバ
少シク放慢ニ流レルノデハナイカト考ヘラ
レマシタ地方財政ノ膨脹モ、幾分其度ヲ緩
メマスル、又土地ニ依リマシテハ、又團體
ニ依リマシテハ、却テ減額ヲ少額ナガラ致

シタト云フ事實モアルノデゴザイマスル
ガ、何分ニモ地方ハ特殊ノ事情ヲ持ッテ居
リマシテ、特殊ノ必要ヲ訴ヘルノデゴザイ
マスルノデ、地方ノ發達ト云フコトヲ全然
之ヲ犧牲ニ供スル譯ニモ參リマセヌ、中央
政府ノ意ノアル所ヲ地方官ガ體シマシテ、
之ヲ府縣ナリ市町村ノ財政ニ應用イタシマ
シテ、又地方ノ人々モ財政緊縮ト云フコト
ニ付キマシテハ、相當考慮イタシテ居リマ
スノデ、既往及ビ將來ニ於キマシテモ益
此緊縮整理ト云フコトハ擴張イタシテ實行
イタサナケレバナラヌノデアリマスガ、今
申上ダマスルヤウナ地方特殊ノ事情デ拾置
キ難イ事情ナドモ湧出シテ來マス、例ヘバ
教育費ニ致シマシテモ、是亦拾置ク譯ニ參
リマセヌ、或ハ交通ノコトニ付キマシテモ
緊縮トハ申シナガラ全然道路港灣モ拋擲ス
ル譯ニ參リマセヌ、又仕事ノ中途ニアルモ
ノモゴザイマスノデ之ヲ捨テマスルコトハ
財政上重大ナ障害ニナルコトモアリマス、
或ハ產業ノ方面ニ付キマシテモ、各方面ニ
付テサウ云フ事實ガアリマスルノデ、私共
ガ中央ニ居リマシテ考ヘマスルヨリモ、今
一層緊縮ヲシテ貫ヒタイトハ考ヘマスル
ガ、十分ニ中央ガ思フ程満足ナル結果ハ得
ラレマセヌデゴザイマスガ、先程申シマス
ル通り或程度ノ緊縮整理ハ行ハシテ居ルノ
デアリマス、唯大正十五年度ノ道府縣ノ豫
算ニ付テ調ベテ見マスルノニ、少シク前年
ヨリハ増額ニナッテ居リマス、デ是モ勿論
豫算ガ確定イタシタ次第デゴザイマセヌ
デ、或ハ内務大臣ニ向ッテ豫算ノ指揮ヲ仰
イデ居ルモノモゴザイマスシ、或ハ又歳入
等ニ於テ許可、認可ヲ必要トスルモノモゴ
ザイマスカラ、是ガ總テ確定イタシタ後デ
ゴザイマセヌト、府縣ノ豫算ノ確定ト云フ
コトヲ見マセヌノデゴザイマスガ、大體ニ

於キマシテ幾分十五年度ニハ増額ニナッテ
居リマス、併シ其内容ハ一々調ベテ致シテ
居リマセヌケレドモ、實ニ地方ノ事情トシ
テハ、此數年間緊縮ニ緊縮ヲ加ヘル……緊
縮ト云フコトデ、引續イテ整理緊縮ヲ致シ
マシタノデ、今日ノ繼續費ノ如キモノハ、
數年前カラ繰延ベテ參リマシタガ、最早來
年ニナリマス、繰延ヘル餘地ガナイト云
フヤウナコトデ、自然繼續費ノ年度支出額
ヲ多額ニ要スル年ニ相當シマスノデ、是等
ノ必要ノ下ニ幾分ノ増加ヲ致シテ居リマス
ノハ、一方カラ考ヘマス、大變遺憾ニ考ヘ
マスケレドモ、地方ノ事情ノ實際カラ致シ
マシテ、是亦已ムヲ得ナイコト、思ヒマス、
餘リ細カキ數字ノコトハ、大變煩瑣デゴザ
イマスノデ、或ハ十年間位ニ付キマシテノ
地方費ノ増減ニ關スル數字ヲ表ニ致シテモ
御目ニ懸ケマシタナラバ、大體御覽下サイ
マスノニ御便宜カト思ヒマス

○男爵藤村義朗君 ドウゾ其表ヲ戴キタイ
ト思ヒマス、唯今ノ御説明モ御尤ノ次第デ
アリマスガ、唯ダ數點伺ヒタイ、各地方ノ
特殊ノ事情ノ爲ニ、中央デ思フ程ノ整理緊
縮モ出來ナイト云フ御辯明モ一應御尤ニハ
存ジマスケレドモ、例ニ舉ゲマシタ教育ナ
リ、交通ナリ、或ハ產業ナリト云フコトハ
是ハマア地方ノ事情ト云フ……特殊ノ事情
トモ言ハレナイノデ、是ハ國家トシテ是非
ヤラナケレバナラヌコトデアルノデス、且
又斯ノ如キコトハ財政ノ許ス範圍ニ於テ積
極的ニヤラナケレバナラヌコト、思ヒマス
ケレドモ、唯ダ數字ヲ見テ見マス云フコト、
地方ノ財政ト云フモノハ、益々年々ニ増加
シテ來ルバカリデアル、而シテ今モ御話ニ
ナリマシタ通り、此數年來緊縮ニ緊縮ヲ重
ネテ居ルト云フ御話デアルガ、實際ニ於テ
サウドウモ緊縮サレテ居ルヤウニモ思ヘナ

イ、例へば昨年ノ議會デ確カ内務大臣デシ
タカ、何デモ一千万圓バカリ減ラシタトカ、
何トカ云フヤウナ御話デアツタノデス、
矢張り私共ノ考トシテハ、國費ト同ジク地
方ノ費用モ餘程調上ゲテ見マシタナラバ、
浪費濫用ガアリハセヌカト思フノデアリマ
ス、モット此地方ノ行政ヲ經濟ノ二運用シ
テ行ク途ガアルマイカト云フヤウニ、私ハ
考ヘテ居ルノデス、是ハ府縣ノミナラズ、
市町村ノ方デモ、市町村ノ財政モ内務省ガ
當然是等ノ公共自治團體ノ監督者デアラ
ル以上ハ、始終監督シテ御出デニナルコト
ト思ヒマスルケレドモ、隨分重立ッタ市ナ
ドノ間ニハ色々ノ奇怪千萬ナ紊亂ノ事實ガ
アルヤウニモ思ハレル、是等ニ付テハ無論
十分御監督ニ相成ッテ居ラレルコト、思
ヒマスケレドモ、新聞ナドヲ見マスルト云
フト、隨分ヒドイ状態ニナッテ居ル、所謂監
督ガ十分ニ行届カヌト云フヤウナ事實ガア
リハセヌカト思フノデアリマス、尙ホ之ニ
付テ御話ガアレバ結構デス

○政府委員(潮惠之助君) 御答申上デマス
ガ、私共モ府縣市町村等ニ於キマスル財
政、或ハ經理ノ關係ニ付キマシテハ、必シ
モ満足ナ結果ヲ得テ居ルトハ、誠ニ遺憾デア
リ、恐縮デゴザイマスルガ、申上デ兼ネ
ノデゴザイマス、併シ一方カラ考ヘマスレ
バ、國ガ自ラ國ノ財政ヲ整理緊縮イタシマ
スノトハ、無論其間事情ガ相違イタシマシ
テ、實行者ハ地方デアリ、一方監督者ノ立
場デアルト云フ相違モゴザイマスノデ、監
督者トシマシテノミ考ヘテ、餘リ些末ノコ
トニ立入りマスルコトハ、却ッテ地方ノ事
情ヲ無視スルヤウナ嫌モゴザイマスカラ、
ソレ等ノ點モ國自ラノ問題トハ多少其間ニ
趣ガ違ヒ、困難モ從ッテ件ヒマスルノデ、
御市シニナリマシタヤウニ、從來財政ノ整

理緊縮ト申シマスルト、私共モ數回其機會
ニ遭遇イタシマシタノデアリマスガ、今御
述ベニナリマシタヤウナ市ノ財政ト云フモ
ノハ、比較的寧ろ膨脹ノ方ニナリマシテ、
減額ト云フコトガ極メテ稀レナノデゴザ
イマス、デ大體ニ於テ何時モ整理緊縮ト申
シマスルト、先ヅ比較的經濟ノ小サイ町村
ガ少額ナガラモ減額ヲ致シテ居リ、ソレカ
ラ府縣モ場合ニ依ッテハ膨脹モアリマスガ、
是モマア比較的膨脹ノ度ガ少ナイノデゴザ
イマスガ、都市ノ歳出ト云フモノハ、ドウ
モ整理減額スルト云フコトガ困難デアリマ
ス、勿論其間ニ於キマシテ、監督者ト致シ
マシテモ、誠ニ満足ノ意ヲ表スル譯ニ參ラ
ヌ點モ幾分ニゴザイマスルケレドモ、一方
此都市ノ急激ナル膨脹ノ爲ニ或ハ交通デ
ルトカ、或ハ衛生教育、其他各般ノ事業ノ
事實、眞面目ナル經費ノ増加モ已ムヲ得ナ
イヤウナ點ガアルコト、思フノデアリマ
ス、内務當局、大藏當局、又其中直接關係
シマスル私共ハ、露骨ニ申シマスルト、地
方團體カラ申セバ、實ニガミ()ト云フ、
頑迷不靈ノコトヲ申スカノ如ク言ハレマス
位ニヤッテ居ルノデアリマシテ、チヨット豫
算ノ報告ガゴザリマシテモ、直グソレヲ捉
ヘマシテ、是ハドウダラウカト云フ點ハ、
一々府縣ノ豫算ナリ、市ノ豫算等ニ付キマ
シテ、反問往復ヲ重ネテ居リマス、其位注
意イタシテ居リマシテ、隨分中央ノ監督ガ
今日デモモウ煩瑣ニ過ギル位ニ、自治ノ當
局者ハ申シマス、併ナガラ其手ヲ緩メル譯
ニ參リマセヌ、尙ホ適當ナ方法ガアレバ少
クトモ經理ノ監督、會計ノ監督ト云フモノ
ハ、尤モ將來力ヲ入レテ十分ニヤリタイ
存ジテ居リマス、唯繰返シテ申シマスルガ、
私共モ満足ナ結果ヲ得テ居ルト云フコトヲ
申上デ御了承ヲ蒙ルコトガ出來ナイ、誠ニ遺

憾ノ狀況ニアリマスノデゴザイマス
○山田惠一君 私モ唯今ノ藤井男爵ト同ジ
意見ヲ有ッテ居リマス、ドウモ政府ニ於キ
マシテハ、國稅ノ整理ヲ致サレマシテ、如
何ニモ有難イノデアリマスケレドモ、地方
稅ノ近來ノ膨脹ト云フコトニ對シテ整理ヲ
ナサツテ下サルコト云フコトガナイノデヤ
ナカラウカ、ソレガ爲ニ我々ハ年來此國稅
ノ負擔ト云フヨリモ、寧ろ附加稅ノ負擔ニ
堪ヘラレヌト云フコトヲ年來叫ンデ居ル者
デアリマス、數字ヲ以テチヨット申上デマ
スルナラバ、大正十年以後ニ於キマシテ、
大正十年以前マデハ數億萬圓位ノ地方費
ガ、大正十年以降ハ十億、十二億、十三億
一千万圓ト云フヤウニ近來大變ナ膨脹ニ
ナッテ居リマス、サウシテ此内務省カラ下
サツタ所ノ此印刷物ニ依ッテ見マシテ、地租
ガ七千三百萬圓ニ對シテ、地租ノ附加稅ハ
一億一千六百八十幾萬圓ト云フ、大體十五
割、若クハ六割ト云フヤウナ數字ヲ示シテ居
マス、又戶數割ニ付キマシテハ、戶數割ノ
附加稅ヲ調ベテ見マシテモ、四千四百五十
萬圓ノ戶數割ニ對シテ、附加稅ハ一億五千
六百七十何百ト云フ、三十四割カ、若クハ
五割ノ附加稅ニナッテ居リマス、ソレカラ
雜種稅ニ付テ調ベテ見マシテモ、雜種稅ガ
五千二百萬圓ニ對シテ附加稅ハ四千六百
萬、國稅營業稅ノ五千九百四十七萬圓ニ對
シテ附加稅ガ六千二百二十何萬圓、是ハ十
割許リニナッテ居リマス、又家屋稅ノ八百四
十七萬圓ニ對シテ附加稅ガ二千七百七十二
萬圓、二十何倍ニナッテ居リマス、附加稅
ニ對シテ我々ハ苦シンデ居ル、ソレニ對シ
テ何トカ政府ニ於テハ一ツ十分ナル御整理
ヲ願ヒタイ、ドウモサウ云フコトヲナサ
ヌ爲ニ、農村ハ非常ニ衰微イタシテ近來其
負擔ニ堪エラレヌト云フコトニナリマシタ

モノガ、延イテハ此農村問題トナリ、或ハ
其他思想問題ニ變化スルト云フヤウナ傾向
ニナッテ居リマス、ドウカ一ツ政府ニ御頼
ミ申シマスカラ、其邊ニ付テ御配慮ニ與リ
タイ

○政府委員(潮惠之助君) 寔ニ御市シノ通
リノ數字デゴザイマシテ、又地方ノ實況ヲ
聞キマシテモ、隨分其地方附加稅ノ負擔ニ
付テハ苦情モゴザイマスルシ、又事實困難
ヲ感ズルコトヲ存ジテ居リマス、出來得マ
スコトデアリマスレバ、政府ト致シマシ
テモ決シテ附加稅ノ率ノ高イコトヲ、額ノ
多キコトヲ望ミマセヌ、出來得ベキデケ整
理モ致シタイノデゴザイマスケレドモ、之
ヲ整理スルニハ、然ラバドウ致シマスルカト
申シマスルト、或ハ地方ノ仕事ヲ一面ニ於
テヤメマスル、サウシテ必要ナ經費ヲ扣除
イタシテ仕舞ヒマスル、或ハ又稅率稅額ヲ
變更イタシマスルニ付テハ、他ニ新ラシイ
財源デモ地方ニ與ヘルト云フコトニ致シマ
スレバ、或ハ此稅制整理ノ上ニ於テモ、稅
率稅額ノ輕減ト云フコトモ出來得タト存ジ
マスケレドモ、如何ナル方面ヲ搜シマシテ
モ、今日ノ附加稅ニ代ハルヤウナ適當ナル
新ラシイ財源モゴザイマセヌ、先程藤村男
爵ニ御答申上デタヤウニ地方ハ各、必要ナ
緊急ナ仕事ヲ致シテ居リマス、此際多額ノ
附加稅輕減ニナリマスヤウナ仕事ヲヤメテ
仕舞フト云フ譯ニモ參リマセヌ、寔ニ遺憾
ヲ感ジツツモ今日ノ整理案ト致シテ大體
斯ノ如キ案ヲ以テ満足イタシテ居ル外ハナ
イ、將來固ヨリ適當ナ機會ガゴザイマシタ
ナラバ、又平素ニ於テモ附加稅ノ増率ト云
フコトハ成ルベク抑ヘマスケレドモ、之ニ
付テ一見附加稅ノ負擔ガ輕クナツタト云フ
コトヲ實際御目ニ掛ケルコトハ困難デア
ラウト存ジマス

○山田惠一君 モウ一ツ御尋ね致シタイ、時間ガゴザイマセヌカラチヨット：政府ハ今此戸數割稅ヲ御廢止ニナリマシテ、ソレデ家屋稅ニ御改メニナルノデスガ、是ハ私共ドウモ不可解ニ存ジマスガ、此政府ノ原案ガ有産階級ノ負擔ガ輕クナツテ、寧ロ細民ノ方ノ負擔ガ重クナルヤウナ傾向ガアリハセヌカト思フ、ソレハ自分ノコトニ付テ考ヘテ見マスルト、私ノ農村ニ致シテモ小サイ村デアリマシテ、僅カ五百戸カソコノ村デアリマスガ、今日マデ戸數ノ負擔ト致シテハ大體二百戸バカリ負擔シテ居リマス、所ガ此家屋稅ノ標準ニ依リマスルト、大體坪數カラ考ヘテ見マスルト、普通農民ノ我々ハ二十倍二十五倍カラ負擔力ニナルノデアリマス、尤モ其中ニ於テ甲乙丙丁ノ等級ハ置カレレモノデアリマセウケレドモ、ソレニ致シマシテモ普通民ノ二十倍ニナルヤウナ勘定ニナツテ居リマス、左様イタシマスルト、有産階級ニハ此家屋稅ヲ新ラシク起シタ爲ニ、有産階級ノ方面ハ負擔ガ輕クナツテ、細民ノ方ノ負擔ガ重クナルノデヤナイカ、斯様ニ考ヘラルノデアリマスガ、ソレニ付テ御答ヲ願ヒマス

○政府委員(潮惠之輔君) 整理案ヲ實行イタシマスルガ爲ニ個人々々ノ負擔ニ於テハ從來ト固ヨリ異動ヲ來タスコトハナイト存ジマスケレドモ、大體ニ於テ唯今御述ベノヤウニ、此整理案ヲ實行イタス結果、細民ニ重クシテ富者ニ必ズシモ輕クナルトハ存ジテ居リマセヌノデ、ト申シマスルノハ成程細民ノ方ハ從來家屋稅ハ負擔シテ居ラナイ、今度新タニ家屋稅ナリ家屋稅附加稅ト云フモノヲ負擔スルト云フト、稅ノ種類ハ一ツ其意味ニ於テハ殖エマセウト存ジマス、併ナカラ一方ニ於テハ御承知ノ通り、申サバ細民階級マデガ負擔ヲ致シテ居リマ

シタ府縣稅ノ戸數割ト云フモノヲ全廢イタシマシタ、是ハ細民ガ負擔シテ居ッタノデアリマス、固ヨリ上ノ方モ負擔イタシマスルガ、隨分細カイ所ガ負擔イタシテ居リマシタ戸數割ト云フモノガ、一方ニ全然府縣稅トシテナクナルト云フコトヲ考ヘテ見ナケレバナラヌト存ジマス、其戸數割ノ一部分ガ府縣ノ家屋稅トナリ、ソレニ對シテ家屋稅附加稅ガ課セラレルノデアリマスシ、他ノ部分ハドウナルカト申シマスレバ、是ハ所得稅附加稅ガ戸數割ノ一部ヲ補填イタシマスルカラ、其所得稅附加稅ハ細民ハ負擔イタシマセヌ、殊ニ累進稅ニナツテ居リマスカラ、中以上有福ナ方ニ所得稅附加稅ガ掛テ参リマフカラ、戸數割ノ廢止、家屋稅ノ新設及ビ所得稅附加稅ト云フコトニナリマスルト、是等ノ點ヲ綜合イタシテ見マスレバ、必ズシモ細民ニ重クシテ富者ノ負擔ガ全體トシテ輕クナルト云フコトハ考ヘラレナイト思フノデアリマス、ソレカラ又尙ホ全體ニ通ジテ見マスレバ、市町村カ將來戸數割ヲ有産イタシマスニ付キマシテハ、此點ハ貧者ニ低ク相當ノ影響ハ對酌イタシマスカラ、有産ノ方必ズシモ輕クハナイ、如何ニ町村稅トシテハ、戸數割トシテ市ヨリ數百倍モ或ハ負擔サレルト云フコトガ起ラウト存ジマスガ、要スルニ全體ヲ通ジテ見マスルナラバ、決シテ富者ニ輕クシテ貧者ニ重クナルト云フヤウナ結果ハアリ得ナイダラウト存ジラ居リマス、現ニ衆議院ニ於テモ此方面ニ就テ御尋ねガアリマシテ、同様ナ御答ヲ致シテ置キマシタノミナラズ、又非公式ニ色々ナ事實ヲ見セラレマシタ方モアリマシタケレドモ、ソレヲ又政府トシテ更ニ巨細ニ調ベテ見マスルト、必ズシモ其方ノ仰シヤルヤウデモアリマセヌ、隨分所得稅附加稅ノ負擔、或ハ家屋稅ヲ課セラ

レマスレバ、自分ノ一家バカリデハナイ、借家ヲ御持チナツテ居ル關係モアリマセウガ、隨分有産階級トシテ賃賃價格ニ依ッテノ家屋稅ノ負擔ハ輕クゴザイマセヌ、彼是レソレ等ヲ考ヘマスルト今申シタヤウナ結論ニ到著スルモノト存ジテ居リマス

○山田惠一君 モウナツト御尋ねシタイト思ヒマスガ：

○委員長(子爵前田利定君) 加何デアリマセウ、明日モ開キマスカラ：皆サンニ御諮リヲ申上ゲマスルガ、二日以來皆サンノ非常ナ御精勵ノ結果免モ角モ各案ニ付テ大體ナリ共各法案ニ互ッテ御質問モ大半終了イタシタヤウニ考ヘラレマスガ、尙ホモウ一日御辛棒ヲ願ヒマシテ、明日一日ハ質問「デ」ト致シマシテ、ドノ部分デモ宜シウゴザイマスカラ、各法案ニ付テ御質問漏レノ箇所ノ御質疑ヲ願ヒタイト思ヒマス、委員長ノ腹積リデハ、明日一日デ質疑タケハ一應御終了ヲ願ヒマシテ、ソレカラ數日間ハ會ヲ休會ト致シマシテ、其間ニ豫算委員會ノ方ノ推移ノ模様モ見、又此法案ニ付キマシテ、整理法案ニ付キマシテ、皆樣方ノ篤ト御研究ノ日ヲ御與ヘ申シタイト思ヒテ居リマス、而シテ稅制案ノ討議ニ入りマスノハ先ヅ十八日前後頃ニ致シタイト考ヘテ居リマス、尤モ此豫算會ノ方ノ進行ノ如何ニ依リマシテハ、或ハ多少先ニ延バスカモ分リマセヌガ、大體其見當ニ致シタイト思ヒテ居リマス

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○男爵阪谷芳郎君 チヨット私ハ參考書ヲ今山田君ノ御尋ねニ付テ此地方ノ附加稅ノコトデスガ、參考書ヲチヨットアルナラバ頂戴シタイノデスガ、私ハ岡山縣デアリマスガ岡山縣ノ或ル地方デハ多額納稅位ニ立テル資格ノ有ル人ナンデスガ、大概例ヘバー

○井上準之助君 チヨット阪谷男爵ノ言ハレルノニ附加ヘテ申シマスガ、制限ヲ付シタ附加稅ノ最高率ト云フヤウナモノヲ其中ニ書イテ載ケバ宜イト思ヒマス、ソレカラ制限ヲ越エテ居ル何ト申シマスガ、地方稅、ソレノ數ト申シマスガ、サウ云フモノヲソレニ附加ヘテ載ケバ大變宜イト思ヒマス、金額或ハ其口數デスガ、内務大藏大臣ノ許可ヲヤラレテ制限外ノ附加稅ヲ許シタ口數ト我々ノ見タイ所ハ制限内デ附加稅ヲシテ居ル所ト、制限ヲ超過シテ居ルモノガドウ云フ割合ニナツテ居ルカ、ソレヲ見タイ

○政府委員(潮惠之輔君) 唯今御示シナリマシタコトハ大體出來マセウト思ヒマスガ、明日ニデモ出來マセウト思ヒマス、阪

谷男爵ノ御示シナリマシタ表ノ如キモノハ餘程ハムツカシイノデハナイカト思ヒマス、尙ホ十分ニ考慮ハ致シマスルガ、直グ御満足ヲ得ルヤウナ數字ヲ以テ申上ゲルコトハ困難デハナイカト思ヒマス

○男爵阪谷芳郎君 ソレハ國稅ノ上カラサウ云フ調ベヲスルノハムツカシイデセウケレドモ、地方ノ一村落トカ云フヤウナ小サイ所ニ行ケバ、サウ云フコトノ調ベハ私ハ出來易イカト思フ、ソレ故ニ私ハ地方稅ノ方ノ側ニ付テ御調ベヲ願ヒタイノデ、附加稅ヲ許スニシタ所デ、收入ヲ皆取ツテシマツテモ宜イト云フヤウナ、附加稅ヲ御掛ケニナル氣遣ハナイ、此附加稅ヲ此率ニ止メル

ト云フノハ、國民ノ手ニハ凡ソ此位ノ收入ガ殘ルト云フ其考ヲ御付ケニナツタ其基礎ノ調ベヲ戴キタイノデアリマス、其基礎ナシニ唯附加稅ヲ課シタト云フコトデアレバ、甚ダ是ハ根據ガ弱イヤウニ思フノデスカ...

○仁尾惟茂君 戶數割ハ資力ニ於テ何スルト云フノデスカ、資力ノ分ケ方ハドウ云フヤウナモノノ概算ヲ以テ當テマスカ、或ハ所得稅トカ、或ハ田畑ノ地價トカ、何トカソレハ一ツドウ云フ標準ニ依リマスカ、ソレヲ一ツ御願ヒシマス、ソレカラモウ一ツハ戶數割ハ資力ニ依ッテ賦課シマスルノニ從來ハ此戶數ヲ何カ箇數ヲ分ケマシテ、例ヘバ十戸ナラ十戸ニシ、一人ハ一個ヲ持ツ、ソレカラ次ノモノハ二個ヲ持ツ、其次ノモノハ三個ヲ持ツ、斯ウ云ウヤウナ方法ニ矢張り御ヤリニナル御積リデゴザイマスカ、其實際ノ金高ヲソレニ皆明示シテ分テ取ル御積リデセウカ、ソレト、若シ今迄一番此戶數割ノ最下ト、ソレカラ最高ノモノトハドウナツテ居リマスカ、ソレ丈御尋ネシテ置キマス

○政府委員(潮惠之輔君) 次回ニ御説明ヲ申上ゲルカ御目ニ掛ケルカ致シマス

○委員長(子爵前田利定君) 明日ハ矢張り午前十時半カラ開會イタシマス、尤モ關稅法案ガ衆議院ノ方カラ若シ貴族院ノ方ヘ今日廻ッテ參リマシテ、明日本會議ノ議事日程ニ上ルヤウナコトガゴザイマシタラ、左様ナ場合ニ於キマシテハ或ハ午後ニ變更イタスカモ知レマセヌ、免ニ角十時半開會イタスコトニ御承知置キヲ願ヒマス、今日ハ之デ散會イタシマス

午後四時十一分散會

出席者左ノ如シ

委員長 子爵前田 利定君
副委員長 男爵阪谷 芳郎君
委員 子爵青木 信光君
子爵裏松 友光君
石原 健三君
男爵藤村 義朗君
男爵長 基連君
男爵長 仁尾 惟茂君
添田 壽一君
南 弘君
井上準之助君
馬場 鏐一君
西野 元君
藤山 雷太君
未延 道成君
山田 惠一君
左右田喜一郎君

政府委員

內務省地方局長 潮 惠之輔君
內務書記官 田中廣太郎君
大藏省主稅局長 黑田 英雄君
大藏書記官 藤井 眞信君

貴族院所得稅法中改正法律案外二十一件特別委員會議事速記録第七號正誤

頁 段 行 誤 正
一一 一 三二 行爲 名義